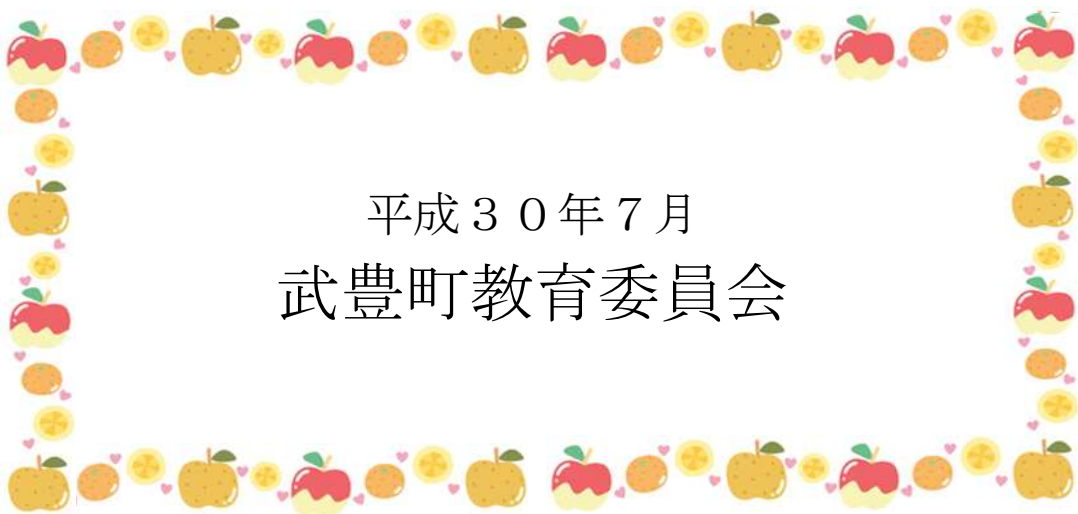




平成 2 9 年度（2017 年度）

武豊町教育委員会活動の 点検及び評価に関する報告書



平成 3 0 年 7 月
武豊町教育委員会

平成30年度武豊町教育委員会点検評価委員名簿

《点検・評価委員》

氏 名	所 属	備 考
林 克次	日本福祉大学教授	
平野 康三	武豊町区長会代表	長尾部部長（上ヶ区長）
小塚南海子	民生児童委員女性代表	
加藤 澄道	武豊町PTA連絡協議会会長	富貴中学校PTA会長
堀家泰司郎	一般公募	

《教育委員会》

氏 名	所 属	備 考
加藤 雅也	教 育 長	
小藤 省吾	教育委員	
永田 淑子	教育委員	
出口 智康	教育委員	
久田 徳彦	教育委員	
木村 孝士	教育部長	
森田 良孝	学校教育課長	
田村 静香	学校教育課課長補佐	
中根 章隆	学校教育課指導主事	
木下 稔章	学校教育課指導主事	
明壁 幸治	学校給食センター長	
伊藤誠一郎	生涯学習課長	
鳥居 秀司	生涯学習課課長補佐	
千田裕美子	町民会館事務長	
青木 隆	町民会館事務長補佐	
石田 修	中央公民館長	
山下 恵広	歴史民俗資料館長	
田中 孝往	スポーツ課長	
栗田 宗広	スポーツ課課長補佐	

項目	施 策 目 標	所 管	頁
	武豊町教育委員会活動の点検及び評価に関して		1
	武豊町教育委員会機構図		2
1	教育委員会業務の推進	学校教育課	3
2	武豊町学校教育の指針		4
3	武豊町立小中学校児童生徒教員数		7
4	学校の今日的課題に対する取組		8
5	学力向上を目指す事業の推進		9
6	いじめ・不登校対策事業の推進		10
7	教育支援の推進		13
8	保護者負担軽減事業の推進		15
9	教育環境の充実		16
10	保育園、小中学校、高等学校との連携		17
11	国際理解教育の推進		19
12	安全で安心な学校給食の推進	学校給食 センター	20
13	学校給食を通じた食育と地産地消の推進		21
14	学習機会の充実	生涯学習課 中央公民館	22
15	情報提供の充実		24
16	人材の育成と活用		25
17	青少年の健全育成		26
18	生涯学習環境の整備		27
19	文化財の保護・活用	歴史民俗 資料館	28
20	町の歴史や文化遺産の再発見と活用		30
21	図書館サービスの充実	図 書 館	31
22	読書推進		33
23	みんなが文化を楽しむきっかけづくり	町民会館	36
24	『こども・若者』が豊かな文化の中で育つ環境づくり		40
25	芸術と科学による本物体験		41
26	会館の有効活用の促進		43
27	町民が生涯を通してスポーツに親しむことができる環境整備	スポーツ課	44
28	総合型地域スポーツクラブの育成支援		46
29	子どもの体力の向上と青少年健全育成		48
30	スポーツ振興を支える基盤の整備		49
	武豊町教育大綱		51
	武豊町教育委員会点検評価委員会設置要綱		53

平成 29 年度武豊町教育委員会活動の点検及び評価に関して

1. 報告書の位置づけ

この報告書は、「地方教育行政の組織および運営に関する法律」第 26 条第 1 項の規定により、武豊町教育委員会の権限に属する事務の平成 29 年度の管理及び執行状況について、点検及び評価を実施した結果をまとめたものです。

2. 目的

当点検評価内容を広く住民に公表すると同時に、次年度以降の政策や取組に反映させて、当町教育行政の振興を図ります。

3. 平成 29 年度の動向

「自らを高めること」「社会に役立つこと」を基本的視点とした第三次愛知県教育振興基本計画「あいちの教育ビジョン 2020」及び、「子どもが健やかに育つまち」を基本目標の一つとする「第 5 次武豊町総合計画（たけとよ ゆめたろうプラン）」の理念を踏まえて方針を検討しました。また、武豊町教育大綱に基づき、平成 29 年度学校教育の重点努力目標を、「いのちの教育の推進」「学習規律と生活規範の定着」とし、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（たくましい体）のバランスのとれた「主体的に生きる子ども」の育成をめざして事業を展開しました。

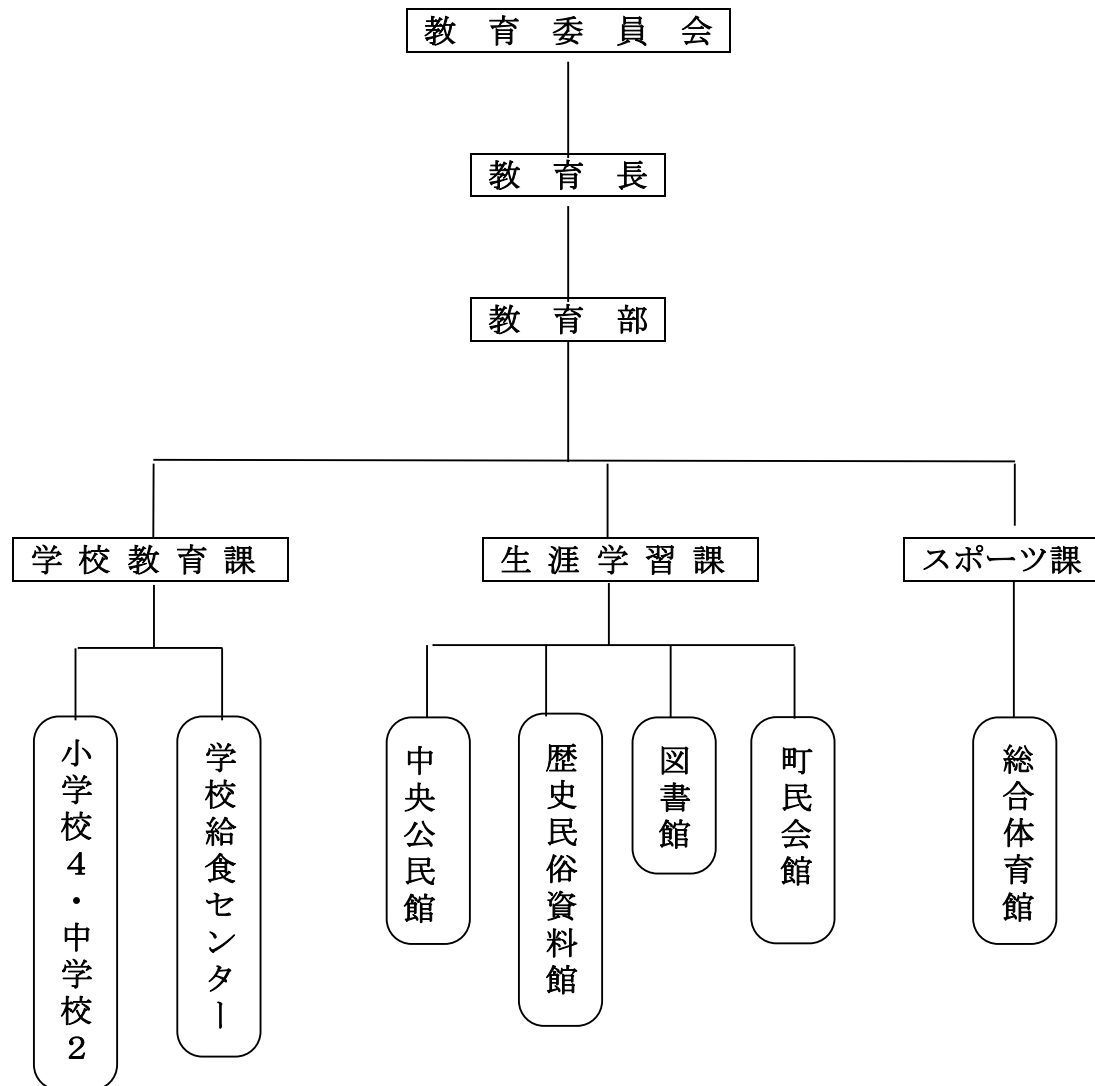
平成 29 年度は、町長部局とともに 2 回の総合教育会議を実施し、新学習指導要領における外国語活動・外国語科への取組方針、教員の多忙化解消に向けての取組及び、学校教育の基本方針の検討などを行いました。また、4 月より、「武豊町いじめ防止基本方針」並びに「武豊町いじめ問題対策連絡協議会等条例」が施行され、いじめに対する積極的認知・早期対応の意識を高めました。

生涯学習では、「心を豊かにし、人をむすび文化をつくる生涯学習のまち」を基本目標として、乳幼児期から高齢者までのライフステージに応じた文化活動やスポーツ活動の充実を図り、各施設でそれぞれの事業を展開しました。

4. 評価方法

各所管の主要な施策を主軸に、施策目標、平成 29 度の主な取組と成果、今後の課題と対応に沿って自己評価を実施し、「武豊町教育委員会点検・評価委員会」で点検・評価を行います。

平成29年度 武豊町教育委員会機構図



1	学校教育課	施策	教育委員会業務の推進
---	-------	----	------------

■ 施策目標

- ① 教育委員会の適正運営の実施
- ② 総合教育会議の実施

■ 平成29年度の主な取組と成果

平成29年4月より、武豊町教育委員会は新教育長制度に移行しました。それに伴い、各種会議・事業の運営に関して、教育長・委員の役割等について調整を行いました。

① 教育委員会の適正運営の実施

・教育委員の状況

	委員数	年齢及び性別	職 業	保護者枠
教育長	1名	50代 男性	1期目	
委 員	4名	60代3名、50代1名 男性3名、女性1名	中小企業診断士・社会保険労務士 歯科医師、元小学校長、会社役員	1名

・教育委員会の開催状況

開催回数		付議案件		主 な 議 決 案 件
定例会	臨時会	議案	報告	
11	2	33	74	・文化財保護委員、いじめ問題専門委員会委員等の委嘱 ・教育委員会所管施設の管理に関する条例の一部改正 ・定例町議会の議案及び補正予算 ・小中学校の儀式、年末年始行事等 ・平成30年度 学校教育の指針・重点施策 ・平成30年度定期人事異動、辞令伝達 ・教育委員会関連の委員・指導員等の委嘱

・教育委員の主な活動

定例教育委員会、総合教育会議、教育委員会点検評価、辞令交付、教職員人事校長面談、学校訪問、予算要望ヒアリング、小中学生海外派遣事業、入学式・卒業式、町現職教育発表会、成人式、福寿大学、町民文化祭、図書館フェスタ、たけとよウォーカー、町教育懇談会 等

② 総合教育会議の実施

開催回数		協議案件		協 議 案 件
定例会	臨時会	協議案	報告	
2	0	3	5	・小学校外国語活動及び外国語科への取組について ・平成30年度学校教育の指針・重点施策について ・夏季休業中の学校閉校日について

■ 今後の課題と対応

新教育長制度に移行されましたが、教育長・教育委員・事務局及び、町長部局が連携を図って実効性のある教育行政を推進していくことに変更はありません。

また、教育委員会主催行事をはじめ、町や学校などの行事へも積極的に参加し、学校現場の様子や児童生徒の状況等の把握に心がけ、教育委員会での審議に役立てていきます。

2	学校教育課	施策	平成 29 年度 武豊町学校教育の指針
---	-------	----	---------------------

武 豊 町 教 育 委 員 会

1 学校教育の目標

武豊町の小中学校では、教育大綱に掲げた第5次武豊町総合計画の将来像である「心つなが みんな輝くまち 武豊」をめざし、これからの時代に志高く未来を創り出していく人材として、自ら考え行動できる「主体的に生きる子ども」を育てます。

第5次武豊町総合計画の将来像

「心つなが みんな輝くまち 武豊」

基本目標4 子どもが健やかに育つまち（子どもが楽しく学校生活を送っているまち）

2 日々の教育活動を通じて育て上げていく子どもの姿

求める子ども像 確かな学力、豊かな心、たくましい体

- 進んで、あいさつ・返事・整理整頓ができる礼儀と節度をもった子ども
- 自ら学び、自分の思いや考えをはっきりと表現できる子ども
- 人々や社会のために役立つことに喜びをもち、進んで行動する子ども
- 思いやりの心をもち、進んで心や体をきたえる子ども
- 身の回りの環境を大切にし、清掃活動にはげむ子ども

3 日々の教育活動を通じて創りあげる具体的な学校の姿

求める学校像 はつらつとした学校生活、あいさつが行き交う学校、安全・安心な学校

- 子どもが行きたくなる学校
朝、子どもが目を輝かせ、元気に家を出られる学校でありたい。
- 親が行かせたくなる学校
親が安心して子どもを学校に送り出し、日ごろの教育活動やわが子の教師を誇れるような学校でありたい。
- 教師がやりがいのある学校
教師一人一人が、教育愛と情熱、使命感をもって生き生きと活動できる、明るい教職員集団（学校）でありたい。

4 本年度の重点努力目標

いのちの教育の推進・学習規律と生活規範の定着

- 「ありがとう」が交わせる、感謝と思いやりの心をもった子どもを育てます。
- 自他のいのちを大切にする心を育て、共に学び合い高め合える学校をめざします。
- 学習規律の定着を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成します。
- 「できる・わかる」を実感し、確かな学力を身に付けることで子どもの自己肯定感を高めます。
- 生活規範意識を定着させ、社会の一員として積極的に活動する子どもを育てます。
- 「チーム学校」を合言葉に、家庭や地域・関係機関と連携し、信頼される学校づくりに努めます。

5 指導の重点

各校の教職員は、「チーム学校」の一員として校長・教頭のリーダーシップのもと、子ども一人一人の成長を願い、教職員の服務規律を徹底し、一致協力して具体的な実践に努める。

(1) 心豊かでたくましい人間性の涵養をめざし、基礎的・基本的な内容の定着に努めるとともに自ら学び自ら考えるといった「学びに向かう力」の向上を図る。

- ①「ありがとう」の言葉を通し、自己の大切さとともに周りの人の大切さを認めることのできる子どもを育てる。
- ②道徳の教科化に向けて、質の高い多様な指導方法及び、成長を実感し意欲向上につながる評価の方法について研究を推進する。
- ③「いのち（エイズ・性）の教育」を充実し、いのちを尊び、進んで心や体をきたえていこうとする態度を育成する。
- ④できる・わかる授業を展開するために、めあてとふりかえりの場面の設定やユニバーサルデザインを意識した支援方法の工夫による指導方法の改善を図る。
- ⑤各教科での基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、学んだ知識を活用する場面を積極的に設定することで、学びの質を高める。
- ⑥学習問題や課題を明確にし、主体的に学ぶ態度を育成することで、達成感や充実感を味わわせる。
- ⑦学習規律の定着を図るとともに、学校と家庭が一体となり、家庭学習の習慣化を支援する。

(2) 新しい時代に対応する教育を推進するとともに、学校や地域の実態を十分に踏まえ、特色ある教育活動の実践に努める。

- ①各学校の実態に応じた目標を定め、PDCAサイクルを取り入れた教育実践を推進する。
- ②次期学習指導要領を見据え、道徳の教科化や小学校英語の導入、インクルーシブ教育などに対する理解を深め、実践に向けた準備を段階的に進めていく。
- ③小中学生の海外派遣事業や国際交流事業を充実するとともに、ALTや国際交流員を十分に生かした国際理解教育の一層の推進をする。
- ④子どもの実態を的確に把握するとともに、校区および武豊町の状況を十分に踏まえ、地域素材を生かした教育活動を展開する。

(3) 子どもとの心のふれあいを大切に、望ましい生活習慣や社会性の育成に努める。

- ①子どもたち一人一人の存在を大切に受け止めるとともに、子どもの言動を共感的に受け止め、自己肯定感を高められるように積極的な生徒指導に取り組む。
- ②生活指導について、町生徒指導研究部会を軸に町内保・小・中学校の連携を密にし、一貫した生活規範意識の確立に取り組む。
- ③いじめ、不登校、虐待などへの対応を明確にし、子どもや家庭の状況把握とともに、校内及び関係諸機関との連携を密にして早期発見・早期対応に努める。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、家庭や地域社会・関係機関との連携を深め、新しい時代に求められる資質・能力を育む。

- ①不祥事防止に向けて教職員の資質向上に努め、地域に信頼される学校づくりを推進し、子ども・教職員・地域の人々が協働できる機会や場の充実を図る。
- ②「地域の子どもの地域で大人が育てる」ことを主軸に、開かれた生徒指導に努め、小学校区での家庭教育推進連絡協議会や武豊町生徒指導推進連絡協議会と連携する。
- ③「あいさつ・安全・安心・ありがとう」の3A+1運動を充実し、地域と連携した人がつながる町づくりに協力する。
- ④「あいちの教育ビジョン2020ー第三次愛知県教育振興基本計画ー」に基づき、自らを高め、社会に役立つことを基本的視点とした「あいちの人間像」の実現をめざす。

【つなぐ】

施設・関係機関との連携と活用
・役割と責任、感謝と思いやり
・助け合い、認め合い、高め合う心

【みんな】

保護者・地域・教育関係団体との連携と協働
・学校・家庭・地域の連携
・自然、歴史、文化、科学・スポーツの調和

第5次武豊町総合計画の将来像



【心 つなぎ みんな輝くまち 武豊】

いのちの教育の推進・学習規律と生活規範の定着

総合教育会議

「武豊町教育大綱」の具現化
町長部局との連携強化
教育条件整備
いじめ問題への対応
次期学習指導要領への方向付け

確かな学力

○学んだ知識の活用
○できる・わかる授業の展開
○家庭学習の定着
○英語・外国語活動の推進
○少人数指導の充実
○特別支援教育の推進
○全校読書タイムの実践
○学習規律の定着
(挙手・返事・声量・学習姿勢)

求める学校像

はつらつとした学校生活
あいさつが行き交う学校
安全・安心な学校

チーム学校

行きたくなる学校
行かせたくなる学校
やりがいのある学校

豊かな心

○特別の教科 道徳に向けた取組
○いのちの教育指導案集の活用
○人権教育の推進
○福祉実践教室の推進
○小中学校海外派遣事業の推進
○情報モラル教育の徹底
○生活規範意識の定着
(あいさつ・返事・はきものそろえ)

知

徳 体

たくましい体

○学校体育の充実
○自己肯定感を高める体験活動の推進
○子ども会、地域スポーツクラブとの連携と支援
○自他の命を守る防災教育
○給食残食の減量「ごちそうさま」
(目標値 小1%・中0.1%)

求める子ども像

確かな学力(自ら学び、自分の思いや考えを表現できる子)
豊かな心(思いやり・感謝・礼儀・奉仕のこころをもった子)
たくましい体(進んで体をきたえる・汗して働く・やり遂げる子)

主体的に生きる子ども

【平成29年度 推進のキーワード】

○ありがとう
○道徳教育
○不登校児童生徒の復帰

○ユニバーサルデザイン
○主体的・対話的で深い学び
○自己肯定感

○スマイルネットワーク
○ボランティア活動
○防災福祉教育

★チーム学校

○信頼される学校
○校長・教頭のリーダーシップ
○OPDCA
○教職員の服務規律
○いじめを許さない学校
○社会に開かれた教育課程

「心を豊かにし 人をむすび

文化をつくる 生涯学習のま

第2次武豊町生涯学習基本構想

3	学校教育課	施策	武豊町立小中学校 児童生徒教員数 (H29. 5. 1 現在)
---	-------	----	---------------------------------

項 目		武豊小			衣浦小			富貴小			緑丘小			合 計		
		組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支
学 年	1 年	4	117	7	2	70	4	3	2	1	4	122	3	13	391	15
	2 年	5	155	5	3	75	2	3	88	2	4	123	1	15	441	10
	3 年	4	137	2	3	82	0	2	82	2	3	104	3	12	405	7
	4 年	4	138	2	2	65	3	3	91	3	3	122	6	12	416	14
	5 年	4	149	2	3	93	0	2	75	4	4	144	5	13	461	11
	6 年	4	147	2	2	71	2	2	75	0	3	121	2	11	414	6
計		25 3	843 (852)	20	15 2	456 (485)	11	15 3	493 (513)	12	21 4	736 (763)	20	76 12	2, 528 (2, 613)	63
教 員		39 (37)			24 (25)			24 (26)			32 (32)			119 (120)		

項 目		武豊中			富貴中			合 計		
		組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支
学 年	1 年	10	328	9	5	155	2	15	483	11
	2 年	8	317	5	3	103	3	11	420	8
	3 年	9	335	5	3	118	4	12	453	9
計		27 4	980 (976)	19	11 2	376 (347)	9	38 6	1, 356 (1, 323)	28
教 員		54 (51)			25 (26)			79 (77)		

※組の計の下段は特別支援学級数

※人数の（ ）は前年度値

4	学校教育課	施策	学校の課題に対する取組
---	-------	----	-------------

1 新学習指導要領実施に向けて

(1) 道徳の教科化

平成 30 年度より小学校で、平成 31 年度より中学校で「特別の教科 道徳」が完全実施されます。各校で適切な対応ができるよう、職員の研修や資料の整備等を行いました。

- 学校訪問や町教務主任会等を通して、「考え議論する道徳」や「道徳科の評価」について、職員への理解と周知を進めました。
- 評価を記録するための、通知表・指導要録の書式変更を行いました。
- 採択された教科書の活用方法に関し、小学校教務主任が出版社による研修を受け、各校でも職員への伝達研修を行いました。
- 地域教材で学ぶために、小学校全児童分の明るいところ（振興会）を配置しました。

(2) 小学校外国語活動・外国語科への対応

平成 30 年度より新学習指導要領の移行措置期間となり、小学校 3・4 年は新設で年間 15 時間、5・6 年は年間 15 時間増の 50 時間の外国語活動が実施となります。平成 32 年度の完全実施を見据え、職員の研修や A L T の配置について検討を行いました。

- 各校代表が県総合教育センター、常滑市等の研修に参加し、各校職員への伝達研修を行いました。また、学校訪問や各種会議において、理解・周知を図りました。
- 9 月の総合教育会議にて、平成 30 年度以後の対応に関する素案について検討を行うとともに、移行措置により増加する授業分の A L T 配置について予算化しました。

2 教職員の多忙化解消

平成 28 年度末に、町多忙化解消 P T による、教育委員会、校長会への提言が行われ、平成 29 年度は、町・教育委員会・学校・各校職員が、それぞれの立場で多忙化解消に取り組みました。

- 毎月の職員在校時間を正確に把握するため、町統一の入力書式（エクセルシート）を作成し、長時間勤務者に対しては、管理職による相談を実施しました。
- 各学校において、会議の効率化や一斉退校日の設定、学校行事の見直し等、学校のマネジメントを推進しました。
- 平成 30 年 8 月 13 日～15 日を学校閉校日とし、職員の連続休暇を取りやすくしました。
- 町陸上大会に続き、平成 29 年度より町卓球大会も体協が主催となりました。あわせて、選手の参加も個人単位で行うこととなりました。
- 12 月に「多忙化解消に向けた取組に関する提案に係る現況」をまとめ、各校に送るとともに、定例教育委員会、校長会、教頭会での提言を行いました。各校や町としての取組状況を全職員に知らせることで、職員の意識向上を図りました。

5	学校教育課	施策	学力向上を目指す事業の推進
---	-------	----	---------------

■ 施策目標

- ① 効果的な外国語（英語）指導へのサポート
- ② スクールアシスタントの効果的な活用



■ 平成29年度の主な取組と成果

① 効果的な外国語（英語）指導へのサポート

29年度は、昨年度に引き続き全校を対象に3名のALTを配置し、小学校5、6年生の外国語活動（各クラス年間35時間）と中学校の英語科（各クラス年間20時間程度）を中心として、延べ2,330時間の指導を行いました。

また、新学習指導要領への移行措置として、30年度から小学校3・4年生および5・6年生において15時間の外国語の授業が追加されます。そこで、新年度からの指導を円滑に行えるように、指導時間数の増加に対応するためのALTの追加予算を要望し、30年度から1名の増員を得ることができました。さらに、教育委員会と町英語部会が連携をして、文科省教科調査官の直山木綿子氏の講演会に各校の代表に参加を要請し、新しい外国語指導の流れについて研修を行いました。

年度	授業の対象	総授業時数	ALT人数
H29	5・6年(35)	840 時間	3 人
H30	3・4年(15) 5・6年(50)	1,625 時間	4 人
H31	3・4年(15) 5・6年(50)	1,560 時間	4 人
H32	3・4年(35) 5・6年(70)	2,555 時間	※4 人

【小学校外国語活動・外国語科の授業時数の推移】

② スクールアシスタントの効果的な活用

教員免許を有し、担任をサポートしながら児童生徒に指導を行うスクールアシスタント（SA）を町で採用し、29年度も全校に配置しました。29年度のSA配置人数は6校で20名、延べ10,535時間の指導を行いました。国語や算数・数学の授業を中心に、理解度・習熟度を配慮したTT指導を行い、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな教育を推進しました。

また、担任との適切な連携と、児童生徒への適切な指導を行えるように、スクールアシスタント・支援員を対象とした研修会を教育委員会の主催で行いました。29年度は20名全員が参加をして研修を受け、新しい学習指導要領のポイントなどを確認するとともに、担任との連携の仕方についてグループ協議を行いました。

■ 今後の課題と対応

平成32年度から、小学校5・6年生で外国語科が週2時間、小学校3・4年生で外国語活動が週1時間行われるようになります。ALTについては一定の成果が出ていますが、今後は、担任が授業を主に指導するための研修や学級担任とALTの連携が必要であります。

また、通常学級内における特別な配慮が必要な児童生徒の数は増加傾向にあります。その中で、充実した学習指導を行い、学力向上につなげていくためには、SAのサポートは欠かせないものになっています。今後も適切な人数の配置と指導の充実に向けた対応を行っていきます。

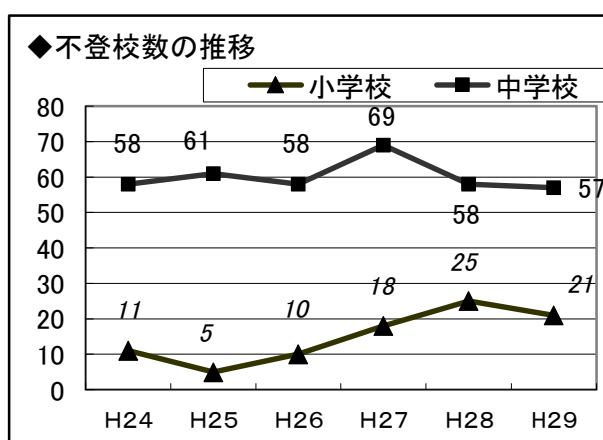
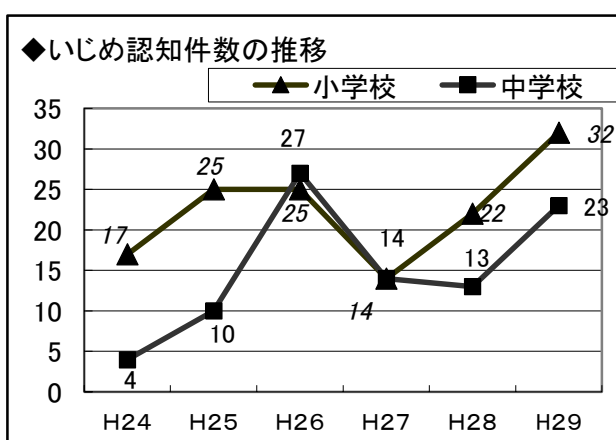
6	学校教育課	施策	いじめ・不登校対策事業の推進
---	-------	----	----------------

■ 施策目標

- ① 生徒指導推進事業の実施
- ② いきいきスクール推進事業の実施
- ③ スクールサポーターの継続配置
- ④ 武豊町適応指導教室「ステップ」の継続運営
- ⑤ スクールカウンセラー活用事業の実施



■ 平成29年度の主な取組と成果

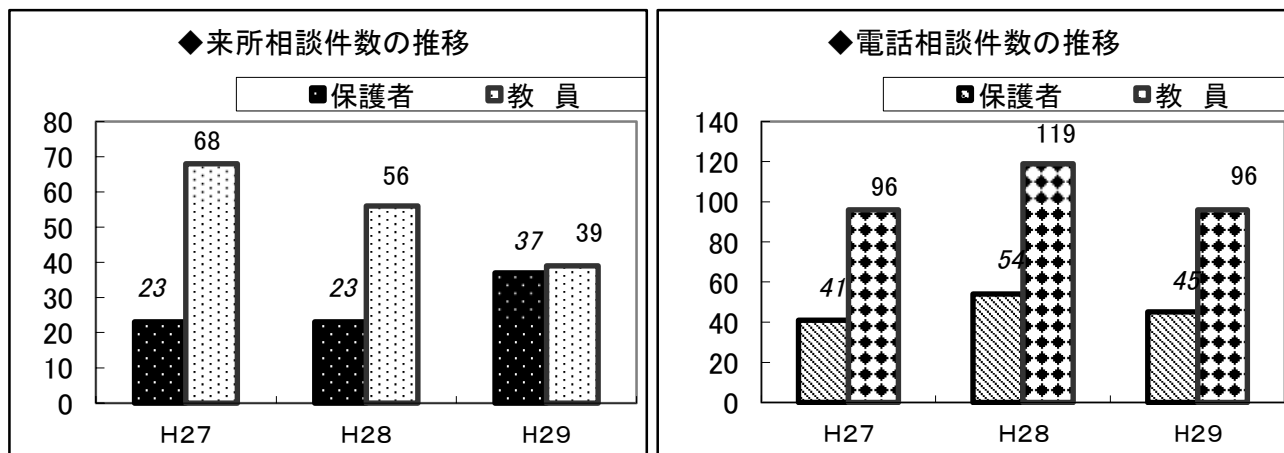


いじめの認知件数は、ここ数年で増加の傾向にあります。これは、単純にいじめの発生件数が増加したというよりも、国や県がいじめをしっかりと認知していくという方針のもと、各校においていじめに関わる事案をしっかりと把握した結果であるとして、国や県も一定の評価をしています。また、いじめの解消も、安易に解消を判断せず、継続して確認していく方針も出されました。

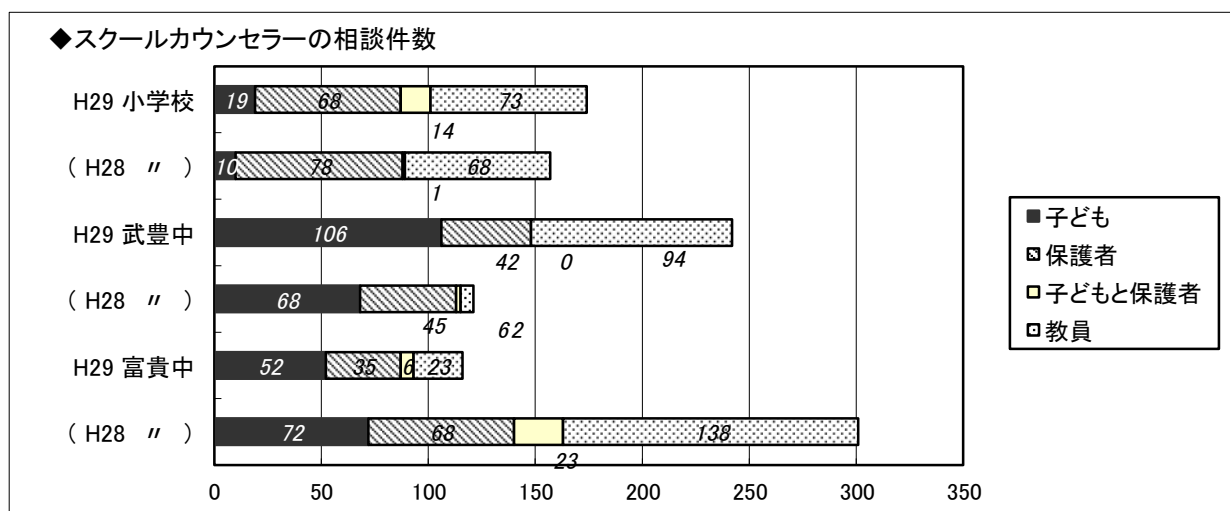
また、不登校の人数は、小学校・中学校ともに横ばいの状態であり、29年度のいじめによる30日以上欠席、いわゆる重大事態は小中とも該当はありませんでした。ただ、100日（年間出席日数約50%）以上欠席している長期欠席者が、小学校4校で5人、中学校2校で28人おり、割合の多い中学校への対応が課題となっています。その対応として、29年度は以下の取組を重点的に行いました。

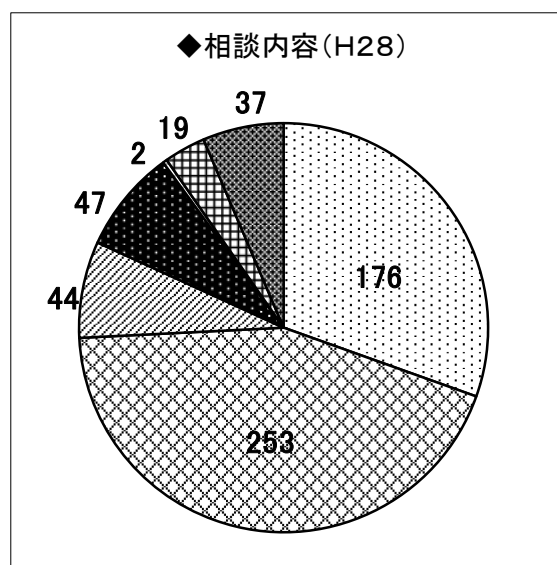
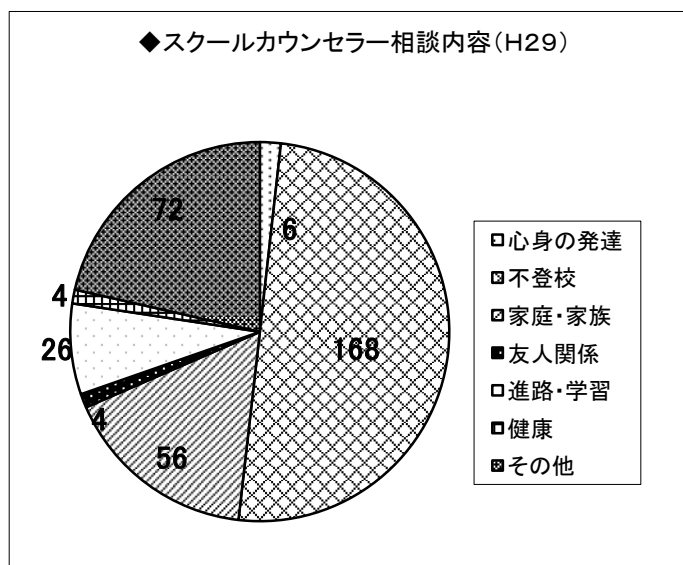
- ① 生徒指導推進事業の実施……青少年の問題行動の原因と対応方法を探究し、生徒指導の具体的な対策、関係機関との連絡調整等について、武豊町生徒指導推進連絡協議会を中心に協議し、活動しました。主な活動としては、ア）生徒指導推進連絡協議会の教育講演会における児童生徒や保護者への啓発活動 イ）各小学校区での民生・児童委員等との情報交換を通じた見守り活動 ウ）児童生徒の意見発表会における児童生徒の意識向上の活動などを実施しました。

- ② **いきいきスクール推進事業の実施**……29年度も校内適応指導教室を両中学校に設置し、職員の配置を行いました。教室に入れない生徒の居場所として、また様々な悩みを抱えた生徒の話を聞く心の居場所としての運用を行いました。
- ③ **スクールサポーターの継続配置**……不登校や問題行動児童生徒のサポートを目的として、29年度も学校教育課に1名配置をしました。各学校や町適応指導教室「ステップ」等と連携し、担任にかわり家庭訪問や付き添い登校をしました。児童生徒だけでなく、保護者にとっても大きな支援となっていました。29年度は、最大で13名の児童生徒に対応しました。
- ④ **適応指導教室（ステップ）の継続運営**……砂川会館を拠点に、学校に行けない児童生徒の復帰支援及び保護者等の教育相談事業を展開しました。29年度は教育相談員1名・指導員1名・メンタルフレンド3名の体制で、入級者5名（H28は6名）に対応しました。個に応じた教科学習や読書活動、規則正しい生活習慣の形成などに取り組みました。教育相談活動の実績は以下ようになります。



- ⑤ **スクールカウンセラー活用事業の実施**……児童生徒や保護者・教員へのカウンセリングのために、両中学校に1名ずつ、全小学校で1名（衣浦小学校が拠点校）、計3名のスクールカウンセラーが県費職員として29年度も配置されました。町では、中学校の相談活動の充実に目的に、県費での延べ622時間の勤務に加え、町単独で中学校2名について70時間を追加配当しました。ここ数年の相談内容は、不登校に関わる相談の割合が最も多くなっています。具体的な相談件数等は次のとおりです。





■ 今後の課題と対応

近年のいじめの要因としては、SNSの使用に関わるもの、児童生徒同士のコミュニケーション力不足によるものが増加の傾向にあります。いじめへの対応については、各校において、アンケートや相談活動等による早期発見・早期対応を今後も継続して行っていきます。いじめの予防や発生時の対応については、通級指導担当やスクールカウンセラーとも連携し、児童生徒の指導を様々な面からサポートできる体制を充実させていきます。

また、不登校の現状は、これまでの様々な取組が少しずつ成果としてはたらき、増加傾向が止まってきています。今後は、中学校における長期欠席生徒への対応が課題となっています。対応としては、これまでも行ってきた町適応指導教室（ステップ）や校内適応教室での相談活動やスクールサポーターによる訪問支援などの活動を継続して行っていくとともに、長期欠席生徒へのはたらきかけとして効果的な方法を考えていく必要があります。

いじめの認知と解消、不登校を含めた長期欠席児童生徒の状況について、確認の方法についても 29 年度に改善し各校に周知を行いました。今後、教育委員会としても現状の把握を充実させ、適切に対処していきます。

7	学校教育課	施策	教育支援の推進
---	-------	----	---------

■ 施策目標

- ① 特別支援員の継続配置
- ② 通級指導教室の継続設置
- ③ 教育支援委員会の実施
- ④ 日本語指導教室の継続運営
- ⑤ 国際交流員の継続配置



■ 平成29年度の主な取組と成果

ここ数年で特別支援学級に在籍する児童生徒は増加の傾向にあります。また、特別支援学級の設置基準が3名から1名に変更されたこともあり、全国的に特別支援学級数も増加しています。一方、通常の学級の児童生徒でも、特別な支援を要する児童生徒が在籍しており、その数も増加の傾向にあります。さらに、外国からの帰国子女や外国籍児童生徒の編入も増えてきており、日本語指導の必要性も増しています。児童生徒一人一人の特性を把握し、個に応じた適切な支援ができる体制づくりは各校の教育活動を支えるものであり、その推進が求められています。

◆平成29年度特別支援学級児童生徒数の状況 ()内は平成28年度の状況

	知的	情緒	肢体不自由	合 計
小学校	28 (21)	34 (36)	1 (1)	63 (58)
中学校	12 (9)	16 (15)	0 (0)	28 (24)
合 計	40 (30)	50 (51)	1 (1)	91 (82)

◆日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒数 (平成30年3月現在)

	ポルトガル語	フィリピン語	中国語	その他	合 計
小学校	15	4	2	3	24
中学校	1	0	0	2	3
合 計	15	4	2	6	27

① 特別支援員の配置

特別支援員は、児童生徒の安全に対する配慮が特に必要な場合に配置されるもので、29年度は、富貴小学校と緑丘小学校、武豊中学校に在籍する児童生徒を対象として、町から1名ずつの配置をしました。個々の特性が多様化する中で、安全・安心のための生活支援を行い、児童生徒が学ぶ場を保障することができています。

② 通級指導教室の設置

通級指導教室では、通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒を対象に、自立活動の指導を行っています。週に1～2時間程度、担当教員と1対1で必要なスキルを身につけていきます。平成29年度は、小学校からの継続を含む希望者の増加を受け、初めて中学校にも担当教員が配置されました。県費による4名（拠点校：武豊中・武豊小・衣浦小・緑丘小）の配置により、巡回指導も含めて、全小中学校において個別の支援を行いました。

③ 教育支援委員会の実施

各関係機関の方を委員に委嘱し、小中学校在籍者および小学校新入学者を対象とした教育支援委員会を年2回行いました。29年度の対象者は51名（28年度は42名）で、その数は年々増加しています。また、教育支援を充実させるために、特別支援教育に関わる実務者（保育園・小中学校・高等学校・関係機関）を対象とした研修も年2回実施しています。29年度は、小中学校だけでなく、中学校と高等学校の連携、小中学校と放課後デイサービスなどの外部団体との連携など、多面的な視点で、児童生徒へのよりよい支援についての情報共有ができました。

④ 日本語指導教室の設置

日本語の理解が不十分な児童生徒への支援のため、県費により日本語指導担当教員が1名配置され、衣浦小学校を拠点校として、全小中学校を巡回して個別の指導を行いました。29年度は、小中学校合わせて27名の児童生徒の指導を行いました。また、日本語教育を必要とする児童生徒の数が増加をしていることを受けて、授業のサポートとして、町で配置している国際交流員も連携を図り、協力して授業に取り組んだり、国際交流員が各学級の授業に入り込んで指導のサポートをしたりするなど、充実した指導が行えました。

⑤ 国際交流員の配置

平成28年7月から、国際交流員（ブラジル国籍）を1名配置し、各小中学校での日本語指導を必要とする児童生徒への学習・生活支援とともに、通訳・翻訳を通じた日本語の理解が不十分な保護者への対応も行いました。近年、まったく日本語が通じない児童生徒・保護者の転入が増え、児童生徒への初期対応として、国際交流員による重点的な日本語指導も行われています。29年度は町内の5校に在籍している日本語指導が必要な児童生徒及び保護者に対して、サポートを行いました。

■ 今後の課題と対応

教育支援の課題は、特別支援学級・通常の学級および通級指導・日本語指導など、様々な場で様々な個々の特性をもった児童生徒への対応が必要となっていることです。これに対する指導は、これまでに行ってきた、スクールアシスタント、特別支援員、国際交流員といった町の人的配置を継続して行い、スクールカウンセラーの時間数増などの措置を適切に行うことによって、児童生徒への支援が継続できる体制を確保していくことが必要になります。

また、日本語の理解が不十分な外国籍の児童生徒の増加に伴い、本人だけでなく、保護者への対応も重要になっています。現在配置されている国際交流員の対応によって、保護者との意思疎通のズレが解消されて問題が解決できた例も多くあり、その必要性は今後ますます高まると思われます。ただし、現在の国際交流員には配置に期限があるため、国際交流員の配置の継続の方法についても教育委員会として考えていく必要があります。



8	学校教育課	施策	保護者負担軽減事業の推進
---	-------	----	--------------

■ 施策目標

- ① 私立幼稚園就園奨励費補助の充実
- ② 私立高等学校授業料補助の充実
- ③ 要保護児童生徒援助費の充実
- ④ 日本スポーツ振興センター共済金負担の充実
- ⑤ 林間学校費援助の充実
- ⑥ 部活動補助の充実

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 私立幼稚園就園奨励費補助の充実

私立幼稚園に通園する保護者の経済的負担軽減のため、所得等により授業料・保育料の補助を実施しました。平成29年度私立幼稚園就園者は61名中50名が補助対象者となりました。

② 私立高等学校授業料補助の充実

私立高等学校等就学支援金制度はあるものの、所得制限により授業料の負担が生じている私立高等学校生徒の保護者に対して、申請により上限12,000円の補助を行いました。

③ 要保護児童生徒援助費の充実

生活困窮世帯の児童生徒の保護者に、給食・学用品費のほか修学旅行等の費用の一部を援助しました。

④ 日本スポーツ振興センター共済金負担の充実

学校管理下における児童生徒の負傷、疾病に関し、必要な給付を受けるための保険加入金を全額負担しました。

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
私立幼稚園就園奨励費補助	40	58	57	45	50
私立高等学校授業料補助	82	87	80	77	96
児童生徒援助（要保護）	3	3	3	5	2
児童生徒援助（準要保護）	283	276	283	311	322
日本スポーツ振興センター	482	385	543	420	446

⑤ 林間学校費援助の充実

【各種補助・援助・給付対象者の推移（人）】

林間学校に参加する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、林間学校の食材費を除く補助の拡充を図りました。平成29年度は、武豊中学校の実施学年変更（2年生→1年生）に伴い2学年実施したため、対象人数が増加しました。

《小学校》 5年生対象（458人） 6,382円／人

《中学校》 武豊中1・2年生、富貴中2年生対象（745人） 6,737円／人

⑥ 部活動補助の充実

競技参加登録費、ユニホーム代、消耗品の一部補助を行いました。平成29年度は、富貴中卓球部、武豊中陸上競技部・体操部の生徒が県・東海・全国大会へ出場しました。

■ 今後の課題と対応

平成29年度も、各事業によりは保護者負担の軽減を推進してきましたが、私立高等学校授業料補助、準要保護児童生徒援助の対象人数が特に増加しました。

義務教育の中で、すべての児童生徒が公平に教育を受ける機会を得られるためにも、経済的な支援を必要とする保護者に対しては、学校給食費・学用品費・新入学費・修学旅行費等の援助を継続していきます。また、私立高等学校授業料補助事業については、授業料の学校間格差もあり、国の助成額等の動向を見極め、補助限度額の範囲内で補助していきます。

9	学校教育課	施策	教育環境の充実
---	-------	----	---------

■ 施策目標

- ① 営繕・維持工事の推進
- ② 安全対策の推進

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 営繕・維持工事の推進

安全・安心な教育環境を整備するために、緊急性を考慮しながら、必要な営繕や工事を行いました。

【小学校】…武豊小学校渡り廊下等改修工事、富貴小学校職員室空調設備更新工事、緑丘小学校視聴覚室空調設備設置工事、武豊小学校非常用放送設備取換工事

【中学校】…富貴中学校校舎床等改修工事



▲武豊小学校渡り廊下



▲緑丘小学校視聴覚室

② 安全対策の推進

町のメール配信システムを活用して、町及び各校より緊急情報の提供や注意喚起を行っています。平成30年3月時点で登録した小中学校保護者のアドレス件数は、4,975件となっています。保護者には、タイムリーな情報提供をしており、学校と保護者が連携して、子供たちの安心・安全の確保に努めるようにしています。

■ 今後の課題と対応

武豊町内学校施設の非構造部材の耐震化や老朽化による劣化等の営繕・維持工事を今後も継続的に実施していきます。

また、防災・防犯の観点から、緊急時に適切に対応するためには、日頃からの情報共有が大切であると考えます。そのために、学校警察連携制度の充実や地域の方との情報交換会の実施、子どもかけ込み110番登録者への協力依頼等により、一層の安全確保に努めていきたいと思えます。特にライオンズクラブと提携した3A（あいさつ・安全・安心）運動につきましては、登録者は約3,900人と年々増加しています。この事業は大きな成果をあげていますので、今後も実施していきたいと思えます。

交通安全については学校、PTA、役場関係者等で随時通学路を点検し、見守り隊等の団体とも協力して、安全・安心な環境づくりを協議していきます。

10	学校教育課	施策	保育園、小中学校、高等学校、各機関との連携
----	-------	----	-----------------------

■ 施策目標

- ① 教育支援委員会実務者会議における連携
- ② 要保護児童対策地域協議会における情報共有
- ③ 学校公開日、学校訪問、学校行事等における交流の実施



■ 平成29年度の主な取組と成果

① 教育支援委員会実務者会議における連携

幼児・児童・生徒支援の理解を深め連携を強くするために、保育園、学校関係者、町の関係機関およびNPOなどの外部団体が集まる教育支援委員会実務者会議を年2回実施しています。29年度は、学校関係者と放課後デイサービスの関係者が、教育支援計画（「み・み・た」のサポートファイル）の効果的な活用について情報交換を行いました。今後も、地域と連携した支援についての話し合いは継続していきます。

【実務者会議参加】

	保育園関係	小中高校関係	関係機関	施設・団体
参加者 参加団体	11園＋1センター ・園長 ・園長補佐 ・子育て支援センター	9校 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・特別支援学級担任 ・通級指導担当	2部署 ○子育て支援課 ○保健センター	8団体 ○NPO法人 ○放課後デイサービス ○知多南部相談支援センター ○社会福祉協議会

② 要保護児童対策地域協議会における情報共有

平成28年度中に全国210か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は、122,578件（厚生労働省資料：速報値）で、過去最多となっています。ここ5・6年で件数は倍近くに増加していることから、多様化する家庭環境についての情報共有・共通理解の必要性は高まっています。

町内に居住する幼児・児童・生徒の健全育成を目指し、子育て支援課が中心となって開催する要保護児童対策地域協議会に本課も参加して、幼児・児童・生徒の状況や家庭環境の変化等について、情報の共有やケース会議を行っています。虐待等の疑いや問題事案に対しては、知多福祉相談センターや町保健センターの職員の協力も得ながら、未然防止・健全育成に向けて取り組んでいます。

	平成28年度		平成29年度		
	世帯数	人数	世帯数	人数	備考
要保護	3	7	3	5	虐待1人、身体虐待4人
要支援	25	60	7	21	
特定妊婦	0	0	0	0	

（参加者）小中学校、学校教育課、子育て支援課、福祉課、健康課、半田保健所、知多福祉相談センター、主任児童委員、人権擁護委員

③ 学校公開、学校訪問、学校行事等における交流の実施

学校訪問においては小中学校同士の参観交流を行っています。小学校の両親学級などの学校公開日や運動会などの学校行事の際には、各園から見学に訪れて小学校現場を知る機会を設けています。

また、各園の保育参観や各校の授業参観をしたり、子育て支援課が開催する研修会に小中学校教員が参加したりするなど、各園の保育や各校の教育についての共通理解を深める場も設定しています。これらの活動を通して、異校種への理解が深まり、連携を強化することができました。



■ 今後の課題と対応

児童・生徒の特性を理解した継続的な支援は、子どもたちの健全育成にとっては不可欠なものです。今後も一層の連携強化が求められる中で、子育て支援課、学校教育課および健康課や社会福祉協議会などと課や枠を超えて連携を図っていく必要があります。

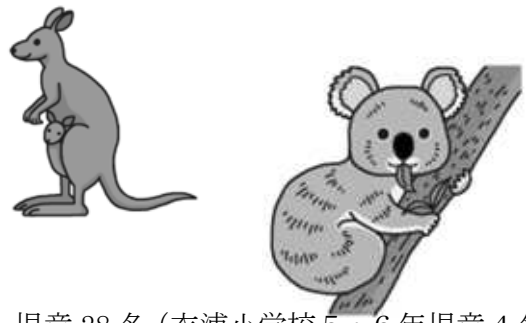
要保護・要支援の家庭が増える傾向にあり、今後も虐待の件数、緊急保護の事案も増えることが予想されます。学校のもつ情報や指導だけでは対応が難しいケースに対しては、子育て支援課、福祉課との連携はもちろんのこと、民生・児童委員、保護司、人権擁護委員との連携、さらに町の関係機関や警察・福祉相談センターとの連携も引き続き行っていきます。児童生徒の健全育成のために、これまでの保育園、小学校、中学校、高等学校といった「縦の連携」に加えて、町内にある各施設との「横の連携」も含めた意識の共有が重要になってきます。

今後も“武豊はひとつ”の合言葉を一層意識しながら、「顔の見える交流（連携）」実現のため、具体的な交流場面の設定や連携の在り方を検討していきます。

11	学校教育課	施策	国際理解教育の推進
----	-------	----	-----------

■ 施策目標

- ① 武豊町オーストラリア派遣事業の実施
- ② 韓国・大光初等学校との交流



■ 平成29年度の主な取組と成果

① オーストラリア・ザビア校への派遣の実施

29年度は、6泊7日（8月21～27日）の日程で、児童28名（衣浦小学校5・6年児童4名、武豊中学校および富貴中学校1・2年生徒24名）と引率者4名（団長：衣浦小学校長、引率教員3名）の合計32名の派遣となりました。現地では、ザビア校の児童との交流活動、ホストファミリー宅でのホームステイ、市内観光などの体験および見学を行いました。また、派遣当日だけでなく、夏休み中には4回の事前学習を行い、英語での日常会話の学習や出し物等の練習を行いました。さらには、帰国後の9月22日には「帰国報告会」も実施しました。「報告書」からは、異文化への理解を深め、国際社会に貢献しようとする、人としての成長をそれぞれ見ることができました。

② 韓国・大光初等学校との交流

29年度事業として、1月19日から22日までの4日間、韓国の大光初等学校のみなさんを武豊小学校にお迎えしました。訪問団は、イ・ヨン・イム校長先生をはじめとする10名の引率のみなさん、5・6年生の29人の児童のみなさんと、例年にない多くの人数で訪れてくれました。初日の歓迎会では、韓国語の歌を全員で合唱したり、和太鼓クラブの演奏や剣道の型の演武をしたりするなど、日本の伝統的な文化にも触れてもらう有意義な会になりました。



また、休日には、ゆめたろうプラザにおいて「歓迎音楽交流会」を行い、町内の小中学生をはじめ、武豊高等学校の生徒、大光初等学校の児童のみなさんが、特徴を生かした合唱や演奏を披露してくれました。多くの観客の前でとても感動的な音楽交流会を行うことができました。

■ 今後の課題と対応

29年度のオーストラリア派遣では、28名の定員に対して各小学校の5,6年生98名の本当に多くの応募がありました。公開抽選により公平に派遣児童生徒を選抜しましたが、選ばれなかった児童生徒のみなさんも、この事業に応募し、チャレンジしたこと自体が大きな成長につながると感じました。

今後も、できるだけ多くの児童生徒に国際交流の機会を提供したいと考えています。



【ザビア校にて！】

1 2	学校教育課 学校給食センター	施策	安全で安心な学校給食の推進
-----	-------------------	----	---------------

■ 施策目標

- ① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供
- ② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

■ 平成 29 年度の主な取組と成果

① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供

給食の献立は、給食センターの栄養教諭が学校給食の栄養基準を考慮したうえで、学校の給食主任者と毎月の定例会で協議し作成しています。また、各学校へ栄養教諭が外向き児童・生徒に対して実施している食の指導等により、食べ物の大切さや食の関心が高まり、町内小中学校の給食の残食率は、主食、牛乳を除いて小学校 1.6%、中学校 0.1%と県内の学校に比べてかなり低い率を維持しています。

また、近年増加傾向にある児童・生徒の食物アレルギー対応として、愛知県教育委員会「学校におけるアレルギー対応の手引き (H28.2)」に基づき、学校、学校教育課(給食センター含む)、アレルギー対応が必要な児童生徒の保護者が面談を行い、除去食や豆乳への代替など、個別に対応しています。平成 29 年度に対応した児童生徒は、22 人でした。

年 度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
アレルギー対応児童生徒 (人)	14	13	15	22

② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

衛生管理に関しては、委託会社の調理員が積極的に参加し、知識・技能の向上に努めています。また、日常の調理業務時においても、委託会社と綿密に情報交換を行ったうえで、栄養教諭が指導を行っています。この委託会社とは、第 5 次行革プランに基づき平成 26 年度より民間委託契約を締結しました。契約期間は平成 30 年度までの 5 年間の長期契約で、委託業務は、給食の調理、学校への配送・配膳、回収、食器類の洗浄、施設の清掃等です。4 年が経過し、学校給食運営のノウハウが高まり、安全で安心な学校給食を提供することができました。

一方、食材は町が購入し、町の献立や指示書に従って委託業者が調理を行っているため、質の低下は見られません。

■ 今後の課題と対応

昭和 50 年に施設が建設されて 43 年が経過し、施設・設備ともかなり老朽化が進んでいます。毎年夏休み期間中に行っている調理機器等の点検結果に基づき、計画的に更新や修繕及び施設の改修工事を実施していますが、修繕、更新及び改修に多額の経費が必要になっています。

また、平成 26 年 12 月から美浜町との広域化について調査・研究を進めてきた結果、いくつかの課題はあるものの総合的に広域化のメリットは大きく、2 町による給食センターの建設・運用が望ましいとの結論が出ており、平成 37 年度以降の広域化に向け、美浜町と協議を進めていきます。

13	学校教育課 学校給食センター	施策	安全で安心な学校給食の推進
----	-------------------	----	---------------

■ 施策目標

- ① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供
- ② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供

給食の献立は、給食センターの栄養教諭が学校給食の栄養基準を考慮したうえで、学校の給食主任者と毎月の定例会で協議し作成しています。また、各学校へ栄養教諭が出向き児童・生徒に対して実施している食の指導等により、食べ物の大切さや食の関心が高まり、町内小中学校の給食の残食率は、主食、牛乳を除いて小学校 1.6%、中学校 0.1%と県内の学校に比べてかなり低い率を維持しています。

また、近年増加傾向にある児童・生徒の食物アレルギー対応として、愛知県教育委員会「学校におけるアレルギー対応の手引き (H28.2)」に基づき、学校、学校教育課(給食センター含む)、アレルギー対応が必要な児童生徒の保護者が面談を行い、除去食や豆乳への代替など、個別に対応しています。平成 29 年度に対応した児童生徒は、22 人でした。

年 度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
アレルギー対応児童生徒 (人)	14	13	15	22

② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

衛生管理に関しては、委託会社の調理員が積極的に参加し、知識・技能の向上に努めています。また、日常の調理業務時においても、委託会社と綿密に情報交換を行ったうえで、栄養教諭が指導を行っています。この委託会社とは、第 5 次行革プランに基づき平成 26 年度より民間委託契約を締結しました。契約期間は平成 30 年度までの 5 年間の長期契約で、委託業務は、給食の調理、学校への配送・配膳、回収、食器類の洗浄、施設の清掃等です。4 年が経過し、学校給食運営のノウハウが高まり、安全で安心な学校給食を提供することができました。

一方、食材は町が購入し、町の献立や指示書に従って委託業者が調理を行っているため、質の低下は見られません。

■ 今後の課題と対応

昭和 50 年に施設が建設されて 43 年が経過し、施設・設備ともかなり老朽化が進んでいます。毎年夏休み期間中に行っている調理機器等の点検結果に基づき、計画的に更新や修繕及び施設の改修工事を実施していますが、修繕、更新及び改修に多額の経費が必要になっています。

また、平成 26 年 12 月から美浜町との広域化について調査・研究を進めてきた結果、いくつかの課題はあるものの総合的に広域化のメリットは大きく、2 町による給食センターの建設・運用が望ましいとの結論が出ており、平成 37 年度以降の広域化に向け、美浜町と協議を進めていきます。

14	生涯学習課 中央公民館	施策	学習機会の充実
----	----------------	----	---------

■ 施策目標

- ① 各種講座・教室・イベントの充実
- ② 青少年・成人・家庭教育の充実

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 各種講座・教室・イベントの充実

各種講座・教室・イベントの実施状況

※ () 内は平成28年度データ

項 目	実施(回)	延べ参加者数(人)	開催曜日	摘 要
手作りパン教室	5	119	土	継続
苔で作るテラリウム教室	1	11	金	新規
そば打ち教室（ざるそば）	2 (2)	21 (23)	金・土	継続
ボトルで楽しもう！親子アクアリウム教室	1	26	日	新規
野草教室「身近な植物の魅力」	1	23	火	新規
飾り巻き寿司教室（親子）	2 (1)	57 (33)	日	継続
ボトルアクアリウム教室	1	8	火	新規
腸大事講座	3 (1)	38 (11)	水・金・土	継続
手作りパン教室（新規開設）	2	18	金・日	新規
実用書道教室～年賀状を作ろう～	4 (4)	44 (80)	火	継続
切り絵教室	3 (3)	44 (33)	水	継続
手作り豆味噌教室（赤みそ）	1 (1)	23 (15)	日	継続
消しごむはんこ教室	2 (2)	29 (31)	日	継続
コーヒーを楽しむ教室	2 (1)	13 (15)	土	継続
手作り米味噌教室（麦みそ）	1 (1)	16 (21)	日	継続
パステルアート教室	3	36	日	継続
手作り米味噌教室（白みそ）	1 (1)	16 (23)	日	継続
手作り和菓子教室	1	27	火	新規
公民館まつり	2 (2)	12,311 (13,096)	土・日	5月20・21日
民謡講習会	1 (1)	257 (255)	土	6月24日
ふるさとまつり	2 (2)	7,730 (6,123)	土・日	8月19・20日

講座・教室を受講された方へのアンケートや、来館者の意見、近隣市町の情報、インターネット検索など、多種多様な情報を基に、講座・教室を企画・設定、実施しました。実用書道教室は、昼間働いている人が参加し易いように、開催の時間帯を平日の夜間にしたところ、多くの方が参加されました。また、講座終了後も参加者が自主的に集まり、講師と一緒に公民館において定期的に活動进行するなど、サークルの結成に発展した講座もあり、公民館利用者の増加につながりました。



民謡講習会

② 青少年・成人・家庭教育の充実

青少年教育

※ () 内は平成 28 年度データ

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
青少年リーダー養成事業	1 (2)	49 (118)	委託事業
たけとよきっず発行	4 (4)		各小学校を通じて児童へ配布
ものづくり教室	1 (1)	40 (40)	協力：J F E スチール(株)
サマーサイエンススクール	1 (1)	49 (49)	協力：ファイザー・ファーマ(株)
わくわく科学実験教室	2 (2)	48 (48)	小学 1～6 年生、講師：中学教諭
子ども英会話教室	4 (4)	23 (18)	講師：武豊町 A L T
ゆめたろう塾	21 (15)	364 (382)	中学 1～3 年生、学習支援員：公募
成人式	1 (1)	390 (370)	成人の日の前日（日曜日）午後開催
居場所づくり事業	11 (12)	235 (209)	委託事業
ここちゃんサポート相談	12 (12)	33 組 (33 組)	委託事業

成人教育

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
福寿大学	6 (6)	1, 350 (1, 284)	講演、健康出前講座など

家庭教育

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
新米お母さんの教室	2 (2)	14 (18)	1 歳未満の子を持つ親を対象
子育てリフレッシュ講座	5 (5)	46 (52)	子育て中の親のストレスを解消
親子ふれあいひろば	20 (20)	360 組 (352)	就園前の子と保護者の学習活動

■ 今後の課題と対応

中央公民館での教室・講座のメニューは、多くの参加者を期待し、また住民ニーズに応えるため、比較的時間にゆとりがある中高年世代を中心とした内容に偏る傾向があります。かねてから若年層の公民館利用者を増やすことが課題となっており、今後は幅広い世代の参加が得られるよう住民ニーズや情報の収集に努め、多様な教室・講座のメニューを考え、時間帯についても工夫をしていきます。

青少年教育・成人教育は、生涯学習の基礎を築くという視点に立って、いろいろな学習や体験ができるよう、地元企業や識者の協力も得ながら講座・教室の更なる充実に努めていきます。

また、家庭教育では、親が子育てについて学習・相談できる機会を増やしていくとともに、子育てネットワークに準ずる人材の育成に努める必要があります。



ゆめたろう塾

15	生涯学習課	施策	情報提供の充実
----	-------	----	---------

■ 施策目標

生涯学習情報の提供と相談体制の充実

■ 平成29度の主な取組と成果

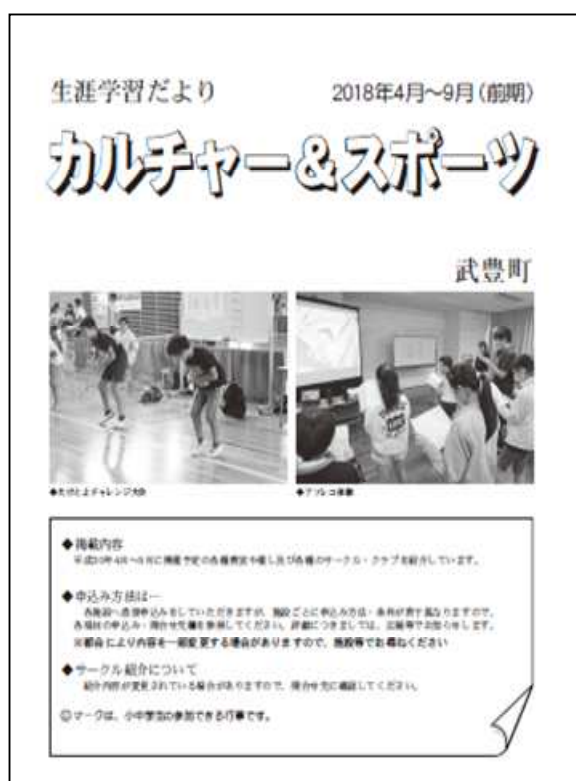
各種教室や催しのお知らせ、各種サークル・クラブを紹介する（サークル紹介は前期のみ）生涯学習だより「カルチャー&スポーツ」を年2回発行し、全戸配布するとともに、教育委員会各施設をはじめ、本庁や富貴支所などに配置し、転入者にも情報提供を行っています。また、町の広報紙やホームページなど様々な広報媒体を活用して生涯学習情報の提供に努めました。

相談体制については、それぞれの求めに応じて学習できるよう、担当部署において事業を行い、住民の声を反映できるような体制を整えました。

■ 今後の課題と対応

生涯学習について、「カルチャー&スポーツ」のさらなる内容の充実を図るとともに、町のホームページや広報紙における生涯学習情報の充実を図るとともに、これまでの手法を見直しながら、さらなる拡充に努めます。

住民からの相談内容は、分野・レベルなど多様化の方向にあり、担当部署の職員は、研修、各種情報交換などを通してより専門性を高める必要があります。



1. 文化・教育（講座・講座会）									
期	講座名	期	日	時	場	講	料	備	注
第1期	① モブのうた・創作歌謡	4月12日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは4月10日まで	申し込みは4月10日まで
第2期	② コーラス・歌唱ワークショップ	4月19日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは4月17日まで	申し込みは4月17日まで
第3期	③ 民謡・民謡の文化と音楽	4月26日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは4月24日まで	申し込みは4月24日まで
第4期	④ 民謡・民謡の文化と音楽	5月3日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは5月1日まで	申し込みは5月1日まで
第5期	⑤ 民謡・民謡の文化と音楽	5月10日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは5月8日まで	申し込みは5月8日まで
第6期	⑥ 民謡・民謡の文化と音楽	5月17日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは5月15日まで	申し込みは5月15日まで
第7期	⑦ 民謡・民謡の文化と音楽	5月24日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは5月22日まで	申し込みは5月22日まで
第8期	⑧ 民謡・民謡の文化と音楽	5月31日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは5月29日まで	申し込みは5月29日まで
第9期	⑨ 民謡・民謡の文化と音楽	6月7日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは6月5日まで	申し込みは6月5日まで
第10期	⑩ 民謡・民謡の文化と音楽	6月14日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは6月12日まで	申し込みは6月12日まで
第11期	⑪ 民謡・民謡の文化と音楽	6月21日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは6月19日まで	申し込みは6月19日まで
第12期	⑫ 民謡・民謡の文化と音楽	6月28日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは6月26日まで	申し込みは6月26日まで
第13期	⑬ 民謡・民謡の文化と音楽	7月5日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは7月3日まで	申し込みは7月3日まで
第14期	⑭ 民謡・民謡の文化と音楽	7月12日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは7月10日まで	申し込みは7月10日まで
第15期	⑮ 民謡・民謡の文化と音楽	7月19日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは7月17日まで	申し込みは7月17日まで
第16期	⑯ 民謡・民謡の文化と音楽	7月26日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは7月24日まで	申し込みは7月24日まで
第17期	⑰ 民謡・民謡の文化と音楽	8月2日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは7月31日まで	申し込みは7月31日まで
第18期	⑱ 民謡・民謡の文化と音楽	8月9日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは8月7日まで	申し込みは8月7日まで
第19期	⑲ 民謡・民謡の文化と音楽	8月16日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは8月14日まで	申し込みは8月14日まで
第20期	⑳ 民謡・民謡の文化と音楽	8月23日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは8月21日まで	申し込みは8月21日まで
第21期	㉑ 民謡・民謡の文化と音楽	8月30日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは8月28日まで	申し込みは8月28日まで
第22期	㉒ 民謡・民謡の文化と音楽	9月6日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは9月4日まで	申し込みは9月4日まで
第23期	㉓ 民謡・民謡の文化と音楽	9月13日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは9月11日まで	申し込みは9月11日まで
第24期	㉔ 民謡・民謡の文化と音楽	9月20日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは9月18日まで	申し込みは9月18日まで
第25期	㉕ 民謡・民謡の文化と音楽	9月27日	18:00-19:00	30分	市民会館	高橋 正	無料	申し込みは9月25日まで	申し込みは9月25日まで

16	生涯学習課 中央公民館	施策	人材の育成と活用
----	----------------	----	----------

■ 施策目標

- ① 指導者、ボランティアの育成・活用
- ② 各種団体・NPO・ボランティアグループとの連携

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 指導者、ボランティアの育成・活用

青少年リーダー養成事業を実施し、子ども会リーダー等49人が参加しました。

② 各種団体・NPO・ボランティアグループとの連携

青少年教育や家庭教育推進事業等において、JFEスチール(株)やファイザー・ファーマ(株)といった地元企業や各小中学校、PTA、じじばの会などの団体との共催により各種事業を行いました。また、公民館まつり、ふるさとまつりにおいて、各種ボランティア団体で実行委員会を組織し、企画・運営を行いました。

■ 今後の課題と対応

地域に多く潜在している人材を発掘・育成し活用することは、人々に活躍の舞台を提供し、地域づくり・まちづくりにもつながるものです。

町民の多様な生涯学習のニーズに対応するためには、「学ぶ」側から「指導・サポート」の側に立つ方が必要となります。機能が不十分となっている「生涯学習ボランティアバンク」の再構築をはじめ、人材確保を積極的に推進し、各種講座・教室、行事などにおける指導者やアシスタントとして活用していきます。

今後は、各種団体をはじめボランティアグループ、地元企業などとの連携、協力関係をさらに推進し、各事業への積極的な参加協力を図っていきます。



サマーサイエンススクール



どろんこ運動会

17	生涯学習課	施策	青少年の健全育成
----	-------	----	----------

■ 施策目標

青少年健全育成事業の推進

■ 平成29年度の主な取組と成果

7月22日に「青少年健全育成推進町民大会」を「社会を明るくする運動推進大会」と共同開催しました。また、町内での啓発活動や有害図書類の回収を実施しました。さらに、「家庭の日」普及推進のため、啓発ポスターの募集展示、親子ふれあい教室の開催、毎月第3日曜日（家庭の日）の前日の土曜日に広報車による巡回活動を実施しました。

義務教育を終えた若者の引きこもり対策について、「子ども若者育成支援事業委託」として社会福祉協議会と連携しながら活動への支援を行いました。

【県民運動の推進】

県 民 運 動	期 間
暴走族追放強調月間	6/ 1 ～ 6/30
青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（夏期）	7/ 1 ～ 8/31
青少年によい本をすすめる県民運動	10/ 1 ～ 10/31
子ども・若者育成支援県民運動	11/ 1 ～ 11/30
青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（冬期）	12/20 ～ 1/10
「家庭の日」県民運動	2/ 1 ～ 2/28

■ 今後の課題と対応

青少年健全育成推進町民大会の平成29年度入場者数は、前年度比5.8%増の201人でした。

これまで以上に青少年の健全育成に寄与する団体等に声掛けをし、多くの人が集まる催しを考えてきましたがわずかな増加でした。

今後も県民運動に関しては、関係行政機関や各種団体、地域、家庭と密接に連携し、施策がより効果的・効率的に推進できるよう内容を吟味し、活動の意義と町民への啓発方法については、近隣の市町の事例も参考にしながら取り組んで参ります。

子ども若者育成支援については、国や県の施策とも連動しながら、役場内の関係部局と連携した引きこもりやニートへの切れ目のない対策を考えていきます。



家庭の日ポスター展（中央公民館）

18	生涯学習課 中央公民館	施策	生涯学習環境の整備
----	----------------	----	-----------

■ 施策目標

- ① 生涯学習関連施設の整備と有効活用
- ② ICT*の活用による施設利用のネットワーク化

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 生涯学習関連施設の整備と有効活用

町内の主な生涯学習関連施設としては、中央公民館、ゆめたろうプラザ（町民会館）、総合体育館、図書館、歴史民俗資料館などがあり、多くの住民に利用されています。

中央公民館は、昭和51年に建設され、町内の生涯学習施設の中で最も古い施設になりましたが、平成25年度に耐震改修工事及びエレベーター設置工事を実施、29年度には講堂の床を全面改修するなど、安全で利用しやすい施設となっています。

その反面、現在の利用団体のほとんどが固定化された減免団体となっている状況であり、利用料の在り方が問題となっています。そのため町内施設の料金設定方針を統一し、平成29年8月から利用料を改定しました。また減免規定の見直しについても今後、準備を進めてまいります。

② ICTの活用による施設利用のネットワーク化

県及び市町村で共同開発している「あいち共同利用型施設予約システム」を利用して、中央公民館、総合体育館（運動公園等を含む）でインターネットによる施設予約を導入しています。このシステムは、利用層が比較的若い総合体育館においては活用されていますが、高齢層が比較的多い中央公民館では活用が少ない状況です。

■ 今後の課題と対応

① 生涯学習関連施設の整備と有効活用

町内の生涯学習施設は、最も古い中央公民館をはじめ多数あります。各施設において、多数の利用者が安全かつ安心して利用できるよう、今後も施設の補強や修繕など時代に対応した設備の改良が必要となってきます。

また、町民全体の平等性を維持していく上からも、公共性の度合いや、負担能力の状況等から、減免制度について見直していくことも必要です。

② ICTの活用による施設利用のネットワーク化

施設予約システムに限らずあらゆる部門でのネットによる情報利用が行われている昨今、高齢者を中心としたデジタルデバイド（情報格差）の解消を進める必要があります。

また、愛知県生涯情報システム「学びネットあいち」への情報提供や利用促進を図ることや、「カルチャー&スポーツ」のWeb化を図るなど、当町の生涯学習情報をICTで活用する検討も必要です。

* ICT=Information and Communication Technology（情報通信技術）

19	生涯学習課 歴史民俗資料館	施策	文化財の保護・活用
----	------------------	----	-----------

■ 施策目標

天然記念物、遺跡、有形・無形文化財等の保存・継承・公開

■ 平成 29 年度の主な取組と成果

① 壺町田湿地植物群落

県指定天然記念物である「壺町田湿地植物群落」については、「壺町田湿地を守る会」の管理協力を得るとともに、「壺町田湿地を守る小中学生ボランティア」の児童・生徒及び教職員の協力をいただき、年間を通じその保全保護・維持管理に努めました。

また、湿地の一般公開は、7月から9月にかけて5日間実施。町内外から多くの方々が見学に来ており、平成 29 年度は前年度を若干上回りました。



【壺町田湿地植物群落一般公開実施状況】

平成 29 年度	
公開日	見学者（人）
7 月 23 日（日）	130
8 月 5 日（土）	107
8 月 6 日（日）	141
9 月 9 日（土）	154
9 月 10 日（日）	169
合 計	701

年 度	見学者（人）
平成 25 年度	651
平成 26 年度	743
平成 27 年度	544
平成 28 年度	618
平成 29 年度	701

② 白山社のクロガネモチ

県指定天然記念物「白山社のクロガネモチ」については、県教育委員会から樹木医の派遣を受け、地元区（富貴市場区、富貴区）の関係者及び白山社の氏子の方々の協力により、枝払いや木の生育を妨げる竹の除去など、樹勢回復のための取組みを行いました。枯死状態となっており、平成 30 年 3 月に県指定が解除されました。



③ 三井家住宅

平成 27 年にその一部が国登録有形文化財となった三井家住宅については、町の委託を受けた住民団体「三井家住宅を護る会」が、建物の修繕と毎月 1 回から 2 回の公開事業を実施、町内外から 990 人が訪れました。

④ 有形・無形文化財

有形・無形文化財の保存・継承については、町指定文化財である山車の維持保存事業、祭囃子の伝承者育成事業に対し補助金を交付し、後継者育成・後世への伝承に努めています。

(補助金額)

有形民俗文化財保存維持補助金	11 団体	各 94,000 円
祭囃子等伝承者育成補助金	12 団体	各 51,300 円

■ 今後の課題と対応

壺町田湿地では、湿地周辺の環境変化や、気象変動など様々な要因により、湿地の環境にも大きな影響を受けていると考えられ、今後の保護保全のために、より一層きめ細かな対策が求められます。特に、湧水の確保や水質の維持については、継続的かつ効果的な対応が不可欠であり、湿地内の食虫植物をはじめとする植生の変移についても、専門家の指導助言を得ながら引き続き対処していきます。平成 24 年 3 月から愛知教育大学に、シロバナナガバノイシモチソウの遺伝子の多様化を通じた株数増加の取組事業を委託しており、一定期間この試みを継続、検証をしたのちその結果を踏まえて、その後の取組み等を考えていきます。

今後の小中学生ボランティアと壺町田湿地を守る会との合同の作業につきましては、守る会の活動計画でもある湿地内の動植物の分布や植生についての記録を残す作業と一緒に進めながら、壺町田湿地の保護・保存についての長期計画のためのデータ収集に努めます。

その他、有形・無形文化財の保存・継承については、既存の補助金制度等を活用し、今後も文化財の保護と活用の観点から、地域と町が協力して、後世にしっかりと継承できるよう努めます。

20	生涯学習課 歴史民俗資料館	施策	町の歴史や文化遺産の再発見と活用
----	------------------	----	------------------

■ 施策目標

町の歴史や伝統、伝説、伝承等の継承とまちづくりへの活用、歴史民俗資料館の事業・行事等の充実

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 展示会の開催

常設展の他に、年2回の企画展示会を開催し、資料館に収蔵する多くの民具等の文化財の公開を行いました。はたおり作品展では、「はたおり友の会」のみなさんの手織り作品の展示とともに、はたおり体験教室を開催しました。むかしのくらし展では町内4小学校の3年生が社会見学に訪れる恒例の企画となっており、29年度は美浜町や南知多町からも来館されました。

展示会名	平成28年度		平成29年度	
はたおり作品展	7/16～8/14	404人	7/22～8/20	589人
むかしのくらし展	12/17～2/5	1,022人	12/16～2/10	1,526人

② 教室の開催

資料館にて、「古文書教室」「おこしものづくり教室」など各種教室を開催しました。

教室名	平成28年度		平成29年度	
古文書教室（中級）	第4土曜	延べ120人	第4土曜	延べ131人
おこしものづくり教室	2/25	16人	2/24	15人

③ 体験学習の開催

警固山周辺で、春はたけのこ、秋はさつまいもの収穫を体験する「おじいさんのアウトドア教室」は、「昔を学び伝える会」やシルバー人材センターの協力を得て、年2回開催しました。

教室名	平成28年度		平成29年度	
おじいさんのアウトドア 40	4/16	53人	4/15	41人
はたおり体験教室	7/23～29	32人	7/22～28	41人
おじいさんのアウトドア 41	11/20	62人	11/19	34人

④ 収蔵資料の保存・管理

民俗資料を始めとする登録済収蔵資料は、現在5万8千点を超過しており、特別収蔵庫や隣接の木造倉庫などで保存管理を行っています。餅つき用の臼や杵等、資料の貸出しは年間10件でした。9月には特別収蔵庫の空調が一部故障したため、応急修繕と機器の更新を行いました。

■ 今後の課題と対応

歴史民俗資料館の責務は、展示内容の充実と収蔵品の保管管理ですが、武豊町の歴史・文化等に対する住民の関心を高めることも大切です。今後も、各種教室や講座の実施を通して、それらの文化（財）的価値や魅力を幅広く伝えるための積極的な取組みが必要となります。

資料館の展示内容については、常設展示においては、昭和60年の開館以来、本格的な更新を実施しておらず、平成の時代に見合った見直しが急務です。企画展示については、収蔵品等の有効活用という点でも、より多くの来館者に見学していただけるような魅力あるテーマの設定や取組みが必要です。そのためにも、地元である武豊町や知多半島の文化財事情に精通した、専門的知識を有する人材が不可欠であります。

21	生涯学習課 図書館	施策	図書館サービスの充実
----	--------------	----	------------

■ 施策目標

一人一人の年代ステージにおける自発的な学習、活動を行うための図書・資料・情報の提供

■ 平成29年度の主な取組と成果

平成28年度の指定管理者選考委員会で引き続き株式会社図書館流通センター（TRC）が指定管理者に選定され（平成28年12月議会において承認）、平成29年4月より5年間の基本協定を再締結し、指定管理者制度導入後6年目となりました。

図書館の利用状況を判断、比較する指標の一つである住民1人当たりの貸出冊数について、平成29年度の数値は10.8冊／人（H28:10.8%）となり、前年度からの増減はありませんでした。

平成29年度の蔵書・資料等の受入冊数は7,783冊（H28:8,717冊）、除籍冊数は4,945冊（H28:6,846冊）、年度末における蔵書数は239,127冊です。図書館の資料収容能力はいよいよ上限に達し、受入作業と並行して除籍作業を進めている状況です。

1年間の予約（リクエスト）冊数16,478冊（H28:16,203冊）の内、インターネットによる申込みは7,813冊（H28:7,345冊）となり、インターネットサービスも定着してきました。愛知県図書館主導による県内公共図書館横断検索（愛蔵くん）や資料物流（通函）の運用により、愛知、岐阜、三重、石川、富山の各県内公共図書館と連携した「相互貸借」による利用者への資料提供も実施しました。

【利用状況】

区 分	28年度	29年度	前年度比
来館者数	209,810人	203,117人	96.8%
貸出人数	83,134人	83,079人	99.9%
貸出冊数	467,881冊	469,359冊	100.3%
蔵書数	236,289冊	239,127冊	101.2%
予約数	16,203冊	16,478冊	101.6%
相互貸借数	1,546冊	1,570冊	101.5%

※ 来館者数には資料の貸出利用者の他にも、図書や新聞、雑誌等の閲覧で来館された方や、学習室や展示室、館内イベント等で来館された方の人数も含まれています。

※ 貸出冊数には図書、視聴覚資料のほか、雑誌等の貸出しも含まれています。

■ 今後の課題と対応

現在の課題として資料の充実、とりわけ、開架図書（お客様が自由に手に取って読むことが出来る本）冊数の少なさがあります。指定管理事業者においては、配架（本棚への陳列）方法や、書架の修繕などの工夫により、よりたくさんの図書資料を利用者と結びつける努力を続けていますが、開架率は39%と低く、蔵書の半分以上が閉架図書（利用者が自由に手に取ることの出来ない本）であるというのが現実です。

システム更新に合わせてOPAC（Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録）の増
台や、閉架書庫の内覧会の実施や、小中学校・保育園などへの閉架児童書の貸出しなど、今後も
閉架図書の効率的な活用を図り、図書資料全体の利用増加を目指します。

また、開架室や閉架書庫に限らず、町立図書館全体としての資料収容能力も限界に達しており、
年間の受入冊数と除籍冊数が拮抗しています。今後も受入数と除籍数はほぼ同数で推移しますが、
資料の除籍については資料個々について重要性、保存の有効性、地域性などを配慮しながら慎重
に行うとともに、平成 29 年度より県レベルでの資料保存事業（ラストワン・プロジェクト）に
参加し、資料保存機能の一部を愛知県図書館と共有していく方向です。

6 年度目を終えた指定管理者制度については、受託者においても武豊町における図書館運営の
ノウハウが蓄積され、現在のところは順調に推移しています。利用者アンケート（2 月に実施し、
3 月に公表）においても図書館の運営について比較的好意的にとらえられている傾向が伺えます。

平成 29 年度からはデジタルサイネージや書籍消毒器の導入など新たな取組を始め、受託者の
高い専門性を活用した利用者への資料・情報提供を最優先とした図書館運営を図っております。

教育委員会としても図書館、出版、情報技術などに関する社会情勢を把握し、将来の町立図書
館像についての検討や、住民への図書館サービスに支障のないようスムーズな引継ぎに努めます。

また、図書資料や情報を住民に提供するという図書館の基本的機能を根幹とし、利用者の底辺
を広げながら（利用促進）、中身の濃い情報提供サービス（質の向上）が継続できるような事業展
開を図ります。



デジタルサイネージ



武豊町立図書館

22	生涯学習課 図書館	施策	読書推進
----	--------------	----	------

■ 施策目標

- ① 子ども読書推進
- ② 図書館行事の充実

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 子ども読書推進

【小学校への資料貸出】

※（ ）は平成28年度

項 目	冊数	摘 要	貸出期間
貸出冊数	5,066 冊 (5,300 冊)	町内4小学校	学期単位

図書館の閉架図書を有効利用する観点から、各小学校に対して文学作品を中心とした団体貸出を実施しています。小学校図書室や学級文庫の資料を補てんし、児童の図書への関心を深めるなど、評価を得ています。

他にも、調べ学習の観点から、教科やテーマに沿った資料を団体貸出（期間は1か月）しています。平成29年度は町内小中学校に対して、1,184 冊（H28:1,230 冊）を貸出しました。

【ブックトークの実施】

ブックトーク（テーマに沿った本の紹介）により、本を仲立ちとして参加した仲間で様々な考え方や発見を共有する機会ができます。また、子どもが本と向き合うきっかけづくりにもなります。本年は依頼のあった衣浦小学校において実施しました。



ブックトーク（衣浦小学校）

【コンクールの実施】

【読書感想文、読書感想画コンクール】※（ ）は平成28年度

区 分	応募人数				合計
	感想文		感想画		
小学校	低学年	381 人 (388)	低学年	241 人 (236)	2,318 人 (2,644)
	中学年	699 人 (746)	中学年	121 人 (251)	
	高学年	817 人 (855)	高学年	59 人 (168)	
	計	1,897 人 (1,989)	計	421 人 (655)	
中学校	1,278 人 (1,194)		380 人 (385)		1,658 人 (1,579)
合 計	3,175 人 (3,183)		801 人 (1,040)		3,976 人 (4,223)

夏休みに親しんだ本の感想を感想文と絵に表現しました。応募作品の中から、「優秀」「優良」「入選」を選定し、図書館フェスタ（11月3日）において表彰式を行いました。

【武豊町立図書館を使った調べる学習コンクール】

（単位：点）

小学1・2年生	小学3・4年生	小学5・6年生	中学生	子どもと大人	合 計
5 (10)	7 (8)	25 (118)	3 (3)	1	41 (139)

優秀作品を図書館振興財団主催の調べる学習コンクールに出品し、全国コンクールにおいて、「優良賞（１作品）」「佳作（１作品）」を受賞しました。

学校における読書推進計画実施状況

学校毎に特色のある読書活動を実施しています。「朝の読書タイム」など児童・生徒が図書に親しむ時間が設定され、さらには教師、地域ボランティアによる読み聞かせなどの活動も行われています。図書館においては、小中学校における読書活動について資料支援やブックトーク、情報交換などのサポートをしています。

【保育園へのアプローチ】

図書館から町内各保育園へ出前のおはなし会や、えほんかるた大会、テーマに沿った絵本などの貸出には、町内の全ての園より依頼がありました。保育園へのアプローチについても、小学校同様、積極的に取り組みました。



えほんかるた会（北保育園）

② 図書館行事の充実

【読み聞かせ、お話会、朗読会】

行 事	実施状況		参加対象者、人数
	開催日	演 者	
おはなしの会	毎週土曜日	おへその会	子どもから大人 5～10人/回
コアラの会	毎週木曜日	図書館スタッフ	乳幼児 15～20組(親子)/回
楽しい夏のおはなし会	7月23日	おだんごぱん	33人
図書館のたんじょう日を祝う 夏休みおはなし会	8月1日	おへその会	36人
夏だ！わいわいおしゃべり劇場	8月27日	ぼっけ	29人
大人のための朗読会	5月9日、8月1日 11月28日、2月20日	グループ 空	1回あたり 約20人

各々の「おはなし会」はボランティアの協力もあり、定例行事として定着してきており、参加者数も増加の傾向にあります。

【講座・講演等】

行 事	実施状況		参加人数
	開催日	講師	
調べる学習チャレンジ講座	7月8、9日	図書館スタッフ	2日間合計30人
夏の工作会	8月6日	滝本 美代子	38人
たけとよ寄席	11月19日	愛知大学 落語研究会	73人
牧田先生の楽しい おしゃべり文学講座	10月14～28日、 11月11日 (毎週土曜、計4回)	牧田 利秋	延べ70人

大人の塗り絵講座	6月18日	加藤 洋一朗	27人
地元のことをもっと知ろう ～壺町田湿地の発見から保護へ～	6月24日	杉田 春一 鈴木 樹雄	42人
ペーパーアート切り絵講座	10月15日	榊原 澄香	20人
読み聞かせ講座 ～絵本っておもしろい！～	11月12日	森 充代 高橋 洋子	20人
みんなで学ぼう！はじめての手話	2月18日	新野 康子 鈴木 智子	16人

【その他の行事】

【図書館フェスタ 2017】

11月3日（文化の日、読書週間の中日）に、読書感想文・感想画コンクール表彰式、図書館を使った調べる学習コンクール表彰式をはじめ、おはなし会、本のリサイクルフェア、ボードゲーム等のイベントを行いました。



ボードゲーム

行 事	開 催 日	参加状況
あなたの好きを教えて！ ～NO『 』, NO LIFE～	9月23日～11月5日（投票） 11月18日～12月2日（発表）	527票（投票数）
秋のスタンプラリー （目指せダブルビンゴ!!）	11月11日～11月30日	1,100枚（配布数）
「ぼくは王さま」上映&写真撮影会	2月4日	30人

■ 今後の課題と対応

開館から30年を過ぎ、老朽化による施設、設備の劣化が目立ち、今後大規模な修繕工事が必要です。今後も施設、設備に気を配り、美しく利用しやすい施設づくりを進めます。

「子ども読書活動推進計画」については、改定に向けて0歳児からティーンズまで、また保育園や学校以外にも家庭や地域での読書活動にも着目した新計画を策定すべく、現況調査や情報収集を進めます。館内行事については、ボランティアサークル「おへその会」をはじめとするボランティア団体等の地域の力を活用・支援しつつ、図書館自体の専門性や活動実績を基礎とした事業展開を進めます。ボランティアの育成については、読み聞かせ講座などのさらなる充実を図るとともに、新規ボランティアの養成や、図書館業務への住民参加の拡充を進めます。

指定管理事業者の企画により開催した「武豊町立図書館を使った調べる学習コンクール（地域コンクール）」は、子どもたちの「生きる力」「考える力」を育むための事業として、大きな成果をあげることができ、今後も継続的に開催していきます。

他に「ライブラリーコンサート」「たけとよ寄席」「閉架書庫見学ツアー」など各種行事についても、概ね高評価を得ています。今後も図書館の機能や資質が広く町民に理解され、より一層図書館が活用される、指定管理事業者のノウハウを活用した企画・運営を行います。

2 3	町民会館	施策	みんなが文化を楽しむきっかけづくり
-----	------	----	-------------------

■ 施策目標

みんなが文化を楽しむきっかけづくり

■ 平成29年度の主な取組と成果

NPOたけとよ委託事業で、人気のゆめプラサロンコンサートは年間7公演を実施しておりますが、他公共ホールと連携することで、質の高いクラシックコンサートを安価な入場料で提供し、気軽にクラシックが楽しめる企画で、安定的な収入が見込める事業です。また、モーニングコンサート実行委員会の主催事業のゆめプラモーニングコンサートは、地元を中心に演奏活動をしている演奏者の支援と、演奏場所の提供を目的として、公募で演奏者を募ったワンコインコンサートです。これらの事業は初心者でも文化を楽しむきっかけづくりを担っております。

学校アウトリーチ事業として、町内の4つの小学校の四年生を対象に出前公演を毎年実施しています。29年度は、ジャグリング、パントマイム、マジックのトップパフォーマー

「ratio-レシオ-」の3人を招いて、パフォーマンス体験ワークショップを行い、目の前で優れたパフォーマンスを鑑賞するとともに、プロパフォーマーと一緒にパフォーマンス体験をし、子どもたちは目を輝かせて取り組んでいました。

有料鑑賞事業

項 目	28年度		29年度	
	事業数	入場者数	事業数	入場者数
町民会館直営事業	0	0	4	1,993
NPO主催事業（委託事業）	14	4,234	11	2,976
実行委員会等委託事業	17	6,490	10	2,183
計	31	10,724	25	7,152

有料鑑賞事業の事業費と入場料

年度	主催者	A 入場料計（円）	B 事業費（円）	A／B（％）
28年度	町民会館	0	0	0
	NPO	11,063,550	18,338,952	60.33
	実行委員会	10,962,825	12,438,303	88.14
	計	22,026,375	22,840,314	71.57
29年度	町民会館	2,915,800	6,436,738	60.26
	NPO	5,802,000	10,647,889	54.49
	実行委員会	1,752,625	6,511,883	26.91
	計	10,470,425	23,596,510	44.37

町民会館鑑賞事業

開催日	主な公演(事業)名	会 場	入場者数	主催者
4月20日	ゆめプラサロンコンサート① 菊本和昭 光輝な響き	響きホール	190	NPO たけとよ
4月22日	ゆめプラメイト総会アトラクション Franc 木管五重奏団 さくらいろコンサート	輝きホール	203	ゆめプラメイト
5月3日	劇団コープス ひつじ	芝生広場	①200 ②150	NPO たけとよ
5月28日	文化のまちづくりセミナー 現場から考える「文化の薫る町」って何のこと?	情報考房	① 23 ② 25	NPOたけとよ
6月6日～ 6月11日	第23回 武豊町絵画展	輝きホール ミーティングルーム	936	実行委員会
6月13日～ 6月22日	学校アウトリーチ ratio パフォーマンス体験ワークショップ	町内4小学校 (4年生)	416	NPOたけとよ
6月18日	ゆめプラサロンコンサート② ロバート・ハニーサッカー 圧巻の黒人霊歌	響きホール	196	NPOたけとよ
6月24日	NPO たけとよ×ratio 特別公演 RECIPeーレシピー	響きホール	①159 ②171	NPOたけとよ
7月2日	イルカ ほのぼのコンサート ～We Love You Planet!～	輝きホール	629	NPOたけとよ
7月8日	ゆめプラサロンコンサート③ 江藤良人・井上陽介・中嶋美弥 ジャズの世界	響きホール	①135 ②130	NPOたけとよ
7月9日	ゆめたろう寄席 2017 「爆笑! 豪華特選会」	輝きホール	364	教育委員会
7月26日	文化のまちづくりセミナー アートとまちづくり	情報考房	27	NPOたけとよ
8月2日	陸上自衛隊第10音楽隊 ふれあいコンサート in たけとよ	輝きホール	580	実行委員会
8月5日	サイエンスレクチャー 桜井進 わくわく数の世界の大冒険	輝きホール	482	NPOたけとよ
8月23日	ゆめプラプレミアムモーニングコンサート 哲夫と佳子～Love Song～	響きホール	183	実行委員会
8月26日	文化のまちづくりセミナー 未来を創るリーダーシップ～ひとりひとりが 良きリーダーとなるために～	情報考房	21	NPOたけとよ
9月3日	Swing Band TAKETOYO 第20回定期公演	輝きホール	292	教育委員会
9月5日～ 9月13日	保育園アウトリーチ 人形劇団ブーク パフォーマンス体験ワークショップ	町内10保育園	1,153	NPOたけとよ
9月16日	松竹特別公演「妖麗 牡丹燈籠」	輝きホール	312	実行委員会
9月20日	ゆめプラモーニングコンサート① My Favorite Songsー私の好きな歌ー	響きホール	175	実行委員会
9月23日	文化のまちづくりセミナー 新時代の地域を創造する人財の育て方 ～小美玉市まるごと文化ホール計画～	情報考房	22	NPOたけとよ

9月24日	ゆめプラサロンコンサート④ コハーン・イシュトヴァーン 夢のように甘やかに	響きホール	170	NPOたけとよ
10月1日	第18回武豊町文化協会芸能祭	輝きホール	967	文化協会
10月11日～ 10月17日	知多に始まる近代絵画パートⅧ 愛美社結成100年 大澤鉦一郎と 「愛美社」の画家たち展	ギャラリー	312	実行委員会
10月15日	ゆめプラサロンコンサート⑤ 瀧村依里 かけがえのない瞬間	響きホール	138	NPOたけとよ
10月18日	ゆめプラモーニングコンサート② マハナと始まるハッピーな1日	響きホール	121	実行委員会
10月28日	白石加代子女優生活50周年記念公演 「笑った分だけ、怖くなる vol.2」	輝きホール	499	NPOたけとよ
11月3日～ 11月4日	町民文化祭	全館	3,897	実行委員会
11月15日	ゆめプラモーニングコンサート③ 市川千明アコースティックライブ ギター弾き語り	響きホール	86	実行委員会
11月18日	武豊町文化講演会2017 西川ヘレン 大家族・支え愛・見守り愛・励まし愛	輝きホール	534	教育委員会
11月25日	エンリケ・クッティーニ楽団 タンゴエモーション	輝きホール	284	NPOたけとよ
12月2日	ゆめプラサロンコンサート⑥ MAKI&MIROKU 華やかさと強さと	響きホール	159	NPOたけとよ
12月3日	名作映画鑑賞会 ①SING-シングー ②オケ老人	輝きホール	①600 ②244	実行委員会
12月16日～ 12月17日	武豊町民劇団 TAKE TO YOU 定期公演 歌え汽車ポッポ！武豊ハイカラレール ウェイ！武豊線物語	輝きホール	①369 ②237 ③384	教育委員会
12月20日	ゆめプラモーニングコンサート④ フルートアンサンブル「虹色の笛」コンサート	響きホール	140	実行委員会
1月13日	大友剛♪鈴木翼♪ロケットくれよん♪ あそびうたコンサートみんなで WA!WA!WA!	輝きホール	528	舞台芸術企画 ゆめっぴ
1月17日	ゆめプラモーニングコンサート⑤ オカリナ&ギター♪ときどきテルミン	響きホール	148	実行委員会
1月19日～ 2月16日	ゆめプラ発アウトリーチ事業 音楽のたまて箱 ふれあい❀お届けコンサート♪	町内5会場	361	教育委員会
2月12日	めざせ！はや通 まもなく Ryugu へ到着 ～小惑星探査機はやぶさ2のこれまでとこれから	響きホール	115	実行委員会
2月17日	芸術と科学のハーモニー特別講演会 「想像するちから」ーチンパンジーが 教えてくれた人間の心ー	響きホール	115	実行委員会
2月21日	ゆめプラモーニングコンサート⑥ ピアノとお話で辿るクラシックの名曲 vol.1 ベートーヴェンとブラームス	響きホール	171	実行委員会
3月10日	レクチャー公演 第9弾 日本舞踊のい・ろ・は	響きホール	116	NPOたけとよ

3 月 18 日	Swing Band TAKETOYO 第 21 回定期公演	輝きホール	347	教 育 委 員 会
3 月 25 日	桑原裕子の戯曲リーディング『痕跡』 《あとあと》	響きホール	144	NPOたけとよ

■ 今後の課題と対応

NPO武豊による学校・保育園アウトリーチ事業、今年度実施したゆめプラ発アウトリーチ事業「音楽のたまて箱 ふれあい❀お届けコンサート♪」などは、こどもや若者が文化をより身近に感じ、興味をもって文化に触れ、自ら表現する機会を作り、文化に親しむことができるので、今後も継続し、本物の芸術に触れる機会を提供していきます。武豊町民劇団 TAKE TO YOU、Swing Band TAKETOYO の 2 団体は、開館以来育成支援をしてまいりましたが、平成 28 年度をもちまして補助金の支援団体ではなくなり、平成 29 年度より、定期演奏会、定期発表会の事業費を委託料にさせていただきます、完全な自立ができるよう指導していきます。

今年度の武豊町民劇団 TAKE TO YOU の定期公演は、武豊線の歴史や、地域のエピソードを取りあげ、若い世代の人々にも武豊を知っていただくよい機会となりました。



武豊町民劇団 TAKE TO YOU
「歌え汽車ポッポ！武豊ハイカラレール
ウェイ！武豊線物語」



ゆめプラ発アウトリーチ事業
「音楽のたまて箱
ふれあい❀お届けコンサート」

24	町民会館	施策	『こども・若者』が豊かな文化の中で育つ環境づくり
----	------	----	--------------------------

■ 施策目標

子ども・若者が文化に親しむ機会づくり

■ 平成29年度の主な取組と成果

「レゴロボット製作教室」などの芸術と科学のハーモニー事業等、子どもたちの創造力を養う事業を数多く実施しました。舞台芸術企画ゆめっぴは、児童を対象とした舞台芸術の公演を実施しました。

若者向けの取り組みの一つは、舞台芸術の魅力発信事業の「桑原裕子の戯曲リーディング公演」です。出演者とワークショップ参加者を公募にて募集し、プロの脚本・演出家の指導の下、日頃演劇に情熱を傾ける若者や、自分の殻を破って違う自分を発見したい人など、大勢の方に参加してもらい感動的な舞台を完成することができました。舞台を観るだけでなく、一緒に作り上げることが体験できる事業でした。



レゴロボット製作教室の様子



桑原裕子の戯曲リーディング
『痕跡』《あとあと》

■ 今後の課題と対応

地域において子どもたちに継続的に舞台公演にふれる機会を提供するため、舞台芸術の公演（児童を対象としたもの）を実施しました。また、製作・企画能力を高め、専門性の必要となる児童へのアプローチをより効果的に行っていくために、ネットワークをつくり地域文化の活性化を図りました。今後も、こどもや若者が文化をより身近に感じ、興味を持って文化に触れ、自ら表現する機会を作り、文化に親しむ事業を展開します。

25	町民会館	施策	芸術と科学による本物体験
----	------	----	--------------

■ 施策目標

住民参加型協働の連携で、芸術と科学のハーモニー事業による本物体験との促進

■ 平成29年度の主な取組と成果

NPOたけとよとの協働事業でさまざまな体験講座を行い、芸術と科学のハーモニー事業を行いました。モデルロケット製作教室&打ち上げ大会やサイエンストークでは地元企業の協力で内容も充実しました。また、天文・宇宙関連事業のJAXAの協力によるコズミックカレッジでは、専門的な実験を体験することができる講座を行いました。開催運営に多くのボランティアスタッフが参加し、円滑に事業を行いました。

8月5日にサイエンスナビゲーター 桜井進氏の「わくわく数の世界の大冒険ー世界は数学でできている」というテーマの講演会を行いました。入場者 326 名のうち、小学生も大勢参加いただき、驚きと感動の算数の世界を体験しました。



モデルロケット打ち上げ大会の様子



サイエンストークの様子

協働による講座・教室

開催日	主な公演(事業)名	会場	参加者数	主催者
4月15日	「天文・宇宙関連」事業 モデルロケット製作教室&打ち上げ大会	創作工房 情報考房 ふれあい広場	製作18 打上のみ7 打上観覧45	NPOたけとよ
5月27・28日	「ものづくり教室」事業 ゴム銃製作教室&競技会	創作工房	延べ27	NPOたけとよ
7月8・15日 16・23日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆初級	創作工房	28	NPOたけとよ
7月11日 ～14日	「レクチャー」事業 はじめての石膏デッサン体験教室	情報考房	延べ37	NPOたけとよ
7月17日	「レクチャー」事業 サイエンストーク 合名会社 中定商店 「みそたまを作ってみそしるを味わおう！」	創作工房	23	NPOたけとよ
7月26・27日	「ものづくり教室」事業 からくり工作教室	創作工房	延べ14	NPOたけとよ
8月5日	「レクチャー」事業 サイエンスレクチャー わくわく数の世界の大冒険 ー世界は数学でできているー 桜井進講演会	輝きホール	326	NPOたけとよ
8月5日 ～13日	「レクチャー」事業 現代アートの鑑賞 「うごき→あそび」「おスイッチ！」	ギャラリー	延べ 1,691	NPOたけとよ
8月27日	「天文・宇宙関連」事業 天体望遠鏡製作教室	創作工房	20	NPOたけとよ

8月27日	「天文・宇宙関連」事業 ゆめプラ星空観察会	芝生広場	74	NPOたけとよ
9月9・10日	「ものづくり教室」事業 大人の木工教室	創作工房	延べ24	NPOたけとよ
9月17日	「アニメーション制作体験講座」事業 話し方体験講座～声・滑舌編～	情報考房	13	NPOたけとよ
9月22日 24日 25日	「レクチャー」事業 アートレクチャー ガムテープで君だけのダンボールコスチュームをつくろう!! with 魔界帝王デスカイザー	創作工房	延べ36	NPOたけとよ
10月7・22日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆オトナ	創作工房	11	NPOたけとよ
10月14日	「アニメーション制作体験講座」事業 アフレコ体験講座	情報考房 スタジオ	13	NPOたけとよ
10月14日	「アニメーション制作体験講座」事業 話し方体験講座～プレゼン編～	情報考房	8	NPOたけとよ
10月22日	「天文宇宙関連」事業 JAXA コズミックカレッジ キッズコース	響きホール	30組 60名	NPOたけとよ
10月22日	「天文宇宙関連」事業 JAXA コズミックカレッジ ファンダメンタルコース	響きホール	18	NPOたけとよ
11月19・26日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆中級	創作工房	14	NPOたけとよ
11月29日 ～12月2日	「レクチャー」事業 石膏デッサン ステップアップ教室	情報考房	延べ23	NPOたけとよ
12月10日	「アニメーション制作体験講座」事業 日用品 de トランスフォーム vol.2	創作工房 練習室他	9	NPOたけとよ
1月21日	「天文・宇宙関連」事業 GIGASTAR®製作教室	創作工房	10	NPOたけとよ
1月21日	「天文・宇宙関連」事業 ゆめプラ星空観察会	芝生広場	52	NPOたけとよ
1月27日	「レクチャー」事業 サイエンストーク 株式会社ニートレックス 「知ってるかな? ダイヤモンドの世界」	(株)ニート レックス 本社工場	18	NPOたけとよ
2月11日 17・18日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆上級	創作工房	延べ21	NPOたけとよ

■ 今後の課題と対応

町民会館は、まちの文化創造活動の拠点として芸術と科学をテーマにした、住民の日頃の学習や練習の成果を発表し、創造の喜びと生きがいを持てるような有意義なイベントや住民が主体的に参加・活動できる事業を展開する必要があります。そのため、住民参画による多様なメニューづくりを行い、住民と行政が協働を実践する場にする必要があります。NPOたけとよのノウハウを活用するとともに、時代のニーズに見合った企画を行います。

また、住民参画によるボランティアについては、参加者自らが考え、職員等と協働で活動していく組織として、鑑賞事業の受付や客席案内等を行うフロントスタッフや広報スタッフ、情報スタッフ及び芸術と科学のハーモニー事業を企画運営するダヴィンチスタッフ等を育成・支援します。

26	町民会館	施策	会館の有効活用の促進
----	------	----	------------

■ 施策目標

住民の自主的な学習、創造、発表、交流等の場の提供

■ 平成29年度の主な取組と成果

町民等の自主的な学習、創造、発表、交流等をはじめ、地域の芸術家の創造活動、地域の公共的なイベント、民間事業者の経済的な視点を含めた文化事業等に、大・小ホール、創造スペース、情報スペースなど機能性の高い施設・設備を設置目的に沿って提供しました。

各施設ともに、稼働率に若干の変動はあるものの、利用形態はほぼ定着しています。開館以来稼働率の低いギャラリーを除き、当初の目標稼働率60%を概ね上回っています。特に、一面ガラス張りの練習室は、和太鼓やピアノ等の楽器の練習やヨガや太極拳などの健康体操、バレエやダンス等に幅広く利用されています。

会館施設の稼働率

施設名	28年度稼働率 (%)	29年度稼働率 (%)
輝きホール	76.4	69.8
響きホール	75.8	70.9
ギャラリー	44.8	35.6
創作工房	63.1	59.5
情報考房	77.1	71.9
練習室	99.0	99.0
ミーテングルーム	89.2	97.7
スタジオ	72.5	75.8
和室	58.5	54.2

■ 今後の課題と対応

町民会館の稼働率は自治体の同類施設の中では比較的高い水準にあります。また、小ホールの響きホールは、適当な収容人員で使いやすいとの評価を得ています。響きホールの稼働率の高さは、ホールの音響の良さ・使いやすさが周知された結果と考えますが、さらに有効利用促進を図ることが重要です。

ギャラリーは、その形状と面積から利用規模等が制約されることが低稼働率の一因と考えられますが、今後は企業等民間団体に多角的な利用方法をPRするとともに、趣味の会やサークル団体の作品展示会等、幅広く活用する方法を検討し、利用率の向上に努めます。

平成29年8月1日より、武豊町民会館の設置及び管理に関する条例を改定し、利用者の公平な負担をお願いしました。今後も、計画的な改修を行い、安心安全で快適な施設の提供ができるようにしていきます。

27	スポーツ課	施策	町民が生涯を通してスポーツに親しむことができる環境整備
----	-------	----	-----------------------------

■ 施策目標

- ① 住民が幅広く参加できるスポーツイベントの開催
- ② スポーツ推進委員の活動支援
- ③ スポーツ関係団体の活動支援
- ④ スポーツ情報の提供

■ 平成29年度の主な取組と成果

- ① 住民が幅広く参加できるスポーツイベントの開催 () は平成28年度実績

項 目	参加者数	摘 要
体力チェック	15 人 (24 人)	握力, 上体起こし, 立ち幅跳び他
たけとよチャレンジ大会	455 人 (340 人)	スリッパとばしはじめ 10 種目ほか
第8回たけとよウォーカー2017 (ウォーキングイベント)	1,187 人 (1,265 人)	ウォーキング3 コース
第12回愛知駅伝	26 人 (26 人)	町村の部 4 位
第19回ゆめたろうスマイルマラソン大会	2,776 人 (2,870 人)	5 マイル始め 4 コース
町民体育大会	4,158 人 (3,172 人)	18 競技

各種スポーツイベントの実施により、生涯スポーツの推進を図るとともに、住民の健康増進と体力の向上、世代間交流に寄与することができました。



第12回愛知駅伝



たけとよウォーカー

- ② スポーツ推進委員の活動支援

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき設置されており、住民のスポーツ振興に関し、実技指導や普及促進などを行うことを目的としています。

項 目	実施回数	スポ推参加者数	摘 要
定例会 (月例)	12 回	15 人/回	事業計画立案等
カロリングカップ	1 回	10 人	大会参加者: 29 人
スポーツふれあい事業 (出前講座)	20 回	延べ 66 人	福寿園ほか
たけとよウォーカー	1 回	12 人	実行委員ほか
ゆめたろうスマイルマラソン	1 回	13 人	参加者受付
各種研修会・研究会	5 回	延べ 43 人	東海4 県研究ほか



カローリングカップ



スポーツ推進委員研修会

③ スポーツ関係団体の活動支援

体育協会の活動支援として 18 競技部に 1,607,000 円の補助金を交付し、各大会等の会場提供をしました。また、スポーツ少年団体の活動支援として 7 団体に 157,500 円の補助金を交付しました。総合型地域スポーツクラブ（NPO 法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ）の活動育成の一環としてスポーツ振興事業（各種教室およびイベント開催）を 2,000,000 円で委託し振興を図りました。体育協会は、加盟団体の競技大会、体育功労者表彰式等を始め、たけとよチャレンジ大会などのイベントを開催し、町のスポーツ振興に資する活動をしています。

また、スポーツ少年団体も、ジュニアの競技スポーツの推進を図っており、両団体に対する町の活動支援は有効に機能しています。

④ スポーツ情報の提供

各種のスポーツ情報は、半期ごとに全戸配布する「カルチャー＆スポーツ」を始め、「広報たけとよ」や町・スポーツクラブのホームページ、事業プログラムなどを活用し、広く町民に提供しました。今後は、これらの情報を町民の方々がさらに関心をもってもらえるようにアピールすることも必要です。また、施設の空き状況検索や予約は、自宅のパソコンやスマートフォンでできるシステムの運用が定着してきました。

■ 今後の課題と対応

- ① 本町におけるスポーツイベントは、マラソン大会など多世代の多くの方を対象に実施していますが、まだまだ日常生活にスポーツ習慣が根付いている環境ではありません。スポーツの裾野を広げ、スポーツ実施率を愛知県と同じ目標値の 60%まで高めるために、各種の大会や教室の充実はもとより、各地域など身近な場所で誰もがスポーツに親しめる環境づくりを行います。
- ② 町非常勤職員のスポーツ推進委員は、これまで地域におけるスポーツ実技指導の一端を担ってきました。今後は、町のスポーツ振興施策の企画立案に参画するとともに、住民の身近な立場からスポーツ振興施策の推進を図る役割が期待されています。特に総合型地域スポーツクラブの育成は、生涯スポーツ社会の実現に向けた国のスポーツ振興基本計画の最重要課題となっており、その活躍が期待されています。
- ③ 体育協会、スポーツ少年団体など既存のスポーツ組織と、総合型地域スポーツクラブとの住み分けや協調連携は、今後の町のスポーツ振興における大きな課題です。特にスポーツ少年団体は、総合型地域スポーツクラブの中心的役割を担うことが考えられ、両者が協働し、相乗効果を生むための仕組みの構築と事業展開を図っていきます。
- ④ スポーツ情報の提供には即時性のある ICT の活用が不可欠です。情報格差を生じさせない配慮をしつつ、スポーツクラブと連携してホームページを充実させ、誰でも、いつでも、どこからでもアクセスできる環境整備が急務となっています。また、施設予約について、パソコン・スマートフォンの申し込みが手軽にできるようシステムの利用促進及び啓発に努めていきます。

28	スポーツ課	施策	総合型地域スポーツクラブの育成支援
----	-------	----	-------------------

■ 施策目標

総合型地域スポーツクラブの育成支援（事業委託）

■ 平成29年度の主な取組と成果

- (1) 会員総数 805 人 (862 人)
- 内訳 一般会員 130 人 (148 人) シニア会員 86 人 (80 人)
- 小中学生会員 459 人 (508 人) 幼児会員 130 人 (125 人)

- (2) 研修会・講習会 () は平成28年度実績

講習会名	開催数	対 象	会 場	参加者数
コーディネーショントレーニング	4 回 (2 回)	クラブ指導者他	総合体育館	延べ 36 人 (24 人)
指導者講習	4 回	クラブ指導者他	総合体育館	延べ 31 人
AED・応急処置	4 回 (3 回)	クラブ指導者他	総合体育館	延べ 60 人 (32 人)

- (3) スポーツ教室 () は平成28年度実績

教室名	開催日・開催数	対 象	会 場	参加者数
J r 陸上	5/13～ 2/17 全 20 回	小学生	武豊小運動場	114 人 (104 人)
キッズフットサル	4/12～ 3/14 全 42 回	年長	総合体育館	21 人 (16 人)
フットサル	4/12～ 3/14 全 42 回	小学生	総合体育館	52 人 (52 人)
J r 野球	4/15～12/23 全 24 回	小学生	衣浦小運動場	6 人 (4 人)
J r 体操	4/ 6～ 3/24 全 108 回	年少～小学生	総合体育館	188 人 (196 人)
J r 新体操	4/ 6～ 3/24 全 97 回	小～中学生	総合体育館	41 人 (43 人)
J r バレーボール	4/15～ 3/31 全 34 回	小学生	総合体育館	30 人 (37 人)
J r 卓球	5/ 9～ 2/11 全 23 回	小・中学生	富貴中	21 人 (16 人)
キッズトレーニング	4/11～ 2/20 全 30 回	年中・年長	総合体育館	25 人 (27 人)
J r バスケット	4/20～ 3/15 全 38 回	小学生	総合体育館	29 人 (38 人)
J r ダンス	4/19～ 3/14 全 32 回	小学生	総合体育館	26 人 (19 人)
タグラグビー	4/15～ 3/13 全 45 回	小・中学生	富貴小, 富貴中	16 人 (17 人)
親子バドミントン	5/14～ 1/20 全 13 回	小学生～一般	緑丘小	21 人 (16 人)
エアロビクス	4/ 6～ 3/15 全 20 回	一般	総合体育館	11 人 (15 人)
ズンバ	4/13～ 3/23 全 20 回	一般	総合体育館	9 人 (14 人)
ヨガ	4/ 7～ 3/23 全 133 回	一般	総合体育館	90 人 (89 人)
男性のための健康体操	4/12～ 3/27 全 48 回	一般男性・夫婦	総合体育館	15 人 (16 人)
フラダンス	4/11～ 3/27 全 31 回	一般	総合体育館	32 人 (27 人)
機能改善ヨガ	4/ 7～ 3/23 全 36 回	一般	総合体育館	22 人 (7 人)

- (4) 介護予防事業 () は平成28年度実績

事業名	開催日	対 象	会 場	参加者数
玉貫体操サロン	4/21～ 3/29 全 25 回	60 歳以上	玉貫老人憩の家	延べ 1,110 人 (981 人)
下門体操サロン	4/ 6～ 3/29 全 48 回	60 歳以上	下門区公民館	延べ 1,638 人 (1,315 人)
富貴体操サロン	9/14～ 3/22 全 12 回	60 歳以上	富貴公民館	延べ 522 人

(5) 体験教室

() は平成 28 年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
運動だいすきっず	3/ 8, 3/15 全 2 回	幼児 ～小学生	総合体育館	73 人
バランスボール	2/ 7, 11/15 全 2 回	一般	総合体育館	24 人
夏季特別陸上教室	7/24～ 8/25 全 8 回	小学生	町内 4 小学校	1,087 人

(6) イベント

() は平成 28 年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
ゆめフルキャンプ	8/15～18	小学 3 年生 ～中学生	中津川	18 人 (19 人)
ゆめフル体操発表会	9/ 3	年少 ～中学生	総合体育館	203 人 (229 人)
J リーグ観戦	11/11	教室参加者	豊田スタジアム	43 人
気球搭乗体験	2/17	小学生	富貴小	38 人



キッズトレーニング



キッズフットサル

多種目、多世代、レベルや興味に応じてプログラムが選べるように提供し、多くの住民が日常的に身体を動かす機会を増やすことにより、子どもの体力向上から高齢者の健康づくりまで、現代社会が抱える様々な問題を解決する一助になるように、クラブ育成の支援をすることができました。

■ 今後の課題と対応

住民主体の総合型地域スポーツクラブが自立的かつ持続的な運営を行うためには、事業を通じて、クラブの認知度を高め不足しているものを検証し、先行きの不安要因といったものを払拭しなければなりません。特にクラブの現在の当面の課題は、「会員の確保（増大）」「指導者の確保（養成）」「財源の確保」などです。

総合型地域スポーツクラブの運営には、今まで以上の高度なマネジメント能力をもつ人材が必要であり、人材の確保と研修はスポーツクラブの育成と発展にとって重要な課題です。また、スポーツ振興の財源を行政外部に求めざるを得ない近年の財政状況は理解できるものの、スポーツ環境の基盤を整備するという行政の責務は失われたわけではなく、計画的な条件整備を可能にする一般財源の確保が求められます。

今後もスポーツクラブが自立的かつ持続的な運営が行えるよう支援を行い、町民の「スポーツ実施率」の向上を目指していくことが必要です。

29	スポーツ課	施策	子どもの体力の向上と青少年健全育成
----	-------	----	-------------------

■ 施策目標

- ① スポーツ活動の推進
- ② 多様なニーズへの対応

■ 平成29年度の主な取組と成果

① スポーツ活動の推進

() は平成28年度実績

項 目	実施回数	参加者数	期 間
プール一般開放	88回 (84回)	3,592人 (3,062人)	7/21～8/11

夏休み期間に4つの小学校のプールを一般開放し、健康、体力づくりの向上に努めました。

② 多様なニーズへの対応

() は平成28年度実績

項 目	実施回数	派遣種目・指導者数	会場等
中学校部活動指導者派遣	159回 (194回)	新体操・柔道・バスケットボール・サッカー 前期6人後期4人	武豊中
	252回 (328回)	卓球・バスケットボール・野球 前期5人後期5人	富貴中

少子高齢化が進む中、将来の地域社会を担う子どもたちの健全な育成が重要であり、スポーツによせる地域住民の期待は高まっています。そこで、スポーツクラブと連携し、スポーツを楽しむ子どもたちの多様なニーズに対応するとともに、中学校の部活動の指導者不足を補うためのスポーツ指導者を各中学校に派遣しました。



プール一般開放



中学校部活動指導者派遣

■ 今後の課題と対応

- ① 子どもたちは本来、日常の様々な生活場面において自然に体を動かすことで、様々な動きを身に付けていきます。しかし、子どもたちを取り巻く環境の変化から、体を動かして遊ぶ機会も場所も減少しています。そこでスポーツとのより良い出会いを、スポーツクラブ、各種スポーツ団体と協働して提供することで、子どもが生き生きとスポーツに取り組み、「運動ざらい」の子どもたちが減少するような働きかけが必要です。
- ② 中学校の部活動以外の種目など、児童生徒一人一人の個性や多様なニーズに対応できるように、レクリエーションスポーツ種目のクラブ活動化をスポーツクラブと連携して進めていく必要があります。また、現在の中学校では、運動部数の減少や、専門種目以外の部活動を指導している教員も多くなっています。このような状況の中で、必要とされる外部指導者の導入によって、中学校でのスポーツ活動の環境整備が促進されつつあります。今後も、学校の実情に応じ、必要とされる種目には指導員を派遣し、部活動の管理運営に協力していきます。

30	スポーツ課	施策	スポーツ振興を支える基盤の整備
----	-------	----	-----------------

■ 施策目標

- ① 社会体育施設等の整備
- ② 学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の有効利用
- ③ 指導者の育成と支援

■ 平成29年度の主な取組と成果

① 社会体育施設等の整備

項 目	事業費	摘 要
運動公園修繕料	1,017 千円	浄化槽ブロワー取替修繕等
運動公園施設営繕工事	1,396 千円	樹木剪定等
総合体育館修繕料	2,954 千円	カーテン取付等

各社会体育施設の老朽化に伴う必要箇所の修繕工事を行い、利用者の利便性、安全性、快適性の維持向上に努めました。

また、屋内温水プール建設に関して、PFI的手法を導入実施するための調査・検討、及び資料作成等を行うことを目的としたPFIアドバイザリー業務を委託しました。今年度の業務では、屋内温水プール整備に係る実施方針や要求水準書の素案作成に取り組みました。

【社会体育施設等年間利用者数】 () は平成28年度実績

項 目	年間利用者数	項 目	年間利用者数
運動公園	34,031 人 (29,654 人)	弓道場	1,685 人 (2,282 人)
武豊緑地グラウンド	5,694 人 (8,330 人)	総合体育館	153,652 人 (163,268 人)

② 学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の有効利用

愛知県教育委員会の協力により県立武豊高等学校体育館・運動場を一般開放しました。

【学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の利用者数】 () は平成28年度実績

項 目	年間利用者数	項 目	年間利用者数
学校体育施設（体育館等）	58,702 人 (63,280 人)	同左（運動場）	56,698 人 (46,637 人)
武豊高校体育館	6,388 人 (6,643 人)	同左 グラウンド	280 人 (50 人)

③ 指導者の育成と支援

指導者セミナーを開催し、指導者の育成、支援に努めました。

愛知県教育委員会保健体育スポーツ課 山下 浩 城 氏

生涯スポーツの推進 ～スポーツで「未来」を創る！～

() は平成28年度実績

項 目	実施回数	参加者数	摘 要
スポーツ指導者セミナー	1 回	45 人 (83 人)	

■ 今後の課題と対応

- ① 社会体育施設の老朽化に伴い、施設の改修、器具の更新の必要性が迫っており、その予算確保と修繕計画が早急の課題です。しかし、費用が高価なためスポーツ振興基金やスポーツ振興くじ助成金を活用した無理のない資金調達が急務となっています。

平成 27 年度の指定管理者制度導入検討委員会において、住民サービスと利便性を向上することや経費の削減などを目的に、総合体育館をはじめとする社会体育施設（運動公園・弓道場）への指定管理者制度を導入することが望ましいとの方針決定が出されました。今年度、NPO ゆめフルたけとよスポーツクラブを指定管理者として指定し、平成 30 年 4 月 1 日から 3 年間、武豊町総合体育館、武豊町運動公園、武豊町運動公園第 2 グラウンド、武豊緑地グラウンド、学校施設の開放（受付事務）の管理を行います。

また、小中学校のプールは、築 30 年を超え、老朽化が進んでおり、改修にかかる経費も膨れ上がっています。天候に左右されず学校の水泳指導ができ、多くの町民が、健康保持・増進のために利用できることから、屋内温水プールの建設計画を進めています。

- ② 現存の社会体育施設のうち一部の施設においては飽和状態となっています。住民が身近な場所でスポーツができるようにするためには、他所管の公共施設及び民間所有の体育施設の有効利用など、活動場所を確保する必要があります。
- ③ 町内にはスポーツ講座・教室の指導者となりうる高度な知識・技術を身に付けている人や、ボランティアとして社会に貢献しようと思っている人が多くいます。これらの方々と、指導者を必要とする団体との情報を共有化することが、地域に密着したスポーツ振興の礎となります。スポーツクラブと連携し、講習会、セミナー等を開催しながら指導者登録制度を確立することにより、指導者を育成支援していきます。

武豊町教育委員会の点検・評価に対する意見（総評） H30度実施

点検・評価委員会の評価

◎ 点検・評価全般について

- A L T、T Tなどの専門的用語が多く使われているが、一般町民に公表することを考えると、注釈をつけるなど理解を促進する努力が必要である。
- 数値化して見えるようにすることも必要であるが、目標とP D C Aサイクルをいかに循環させていくかが大切であり、各課の活動の中で対応してほしい。
- 教育基本法第1条「教育の目的」に、「人格の完成を目指して…」とある。子どもの人格だけでなく、職員についても人格の完成を目指すよう啓発を行ってほしい。
- 「今後の課題」については、担当者の思いだけでなく、来年度以降、何をどのように行うといった目標を、具体的に示していくことが必要である。

◎ 学校教育関係

- 立哨をしていると、大きな水筒やプールの荷物を抱えた子どもたちは、本当に大変そうである。学校で飲み水の用意する、空調をつけるなど、何らかの対応が必要ではないか。
- あいさつは非常に大切である。学校だけでなく、地域でも大人が先にあいさつすることで、子どもたちもできるようになっていくのではないか。
- 英語能力を高め、世界に通用する子どもを育ててほしい。武豊町は愛知県で一番になるという気概をもって独自の施策を考えるなど、目標を明確にして取り組んでほしい。
- 国際理解教育を一層推進するためにも、現在のオーストラリアと韓国への派遣の枠をもっと広げるべきである。自分と異なる価値観の人と触れ合い、広い視野をもつ児童生徒を増やしてほしい。
- 中学になると不登校が多くなっていくが、愛情不足や相談相手のなさが原因の一つになっている。スクールカウンセラーやスクールサポーターの一層の活躍を期待したい。
- 給食の安全・安心に関して、民間委託は有効に機能している。栄養教諭が「食の教育」に取り組み、さらに家庭への教育も進めていることは大変意義深いものである。

◎ 生涯学習関係

- 生涯学習関連の各施設が、大変有効に活用されていることがよくわかった。
- 歴史民俗資料館の使命として資料の保存があるが、いかに町民のために生かすかを考えてほしい。地域には長い歴史があって現在があるという意識をもたせたい。
- 壱町田湿地の保全など、周辺地域も含めた取組が必要な課題に対して、行政主導でない形で長期計画を策定しているという取組は評価できる。
- 中央公民館の講座やイベントは大変活発で素晴らしい。しかし、中央公民館は利用無料の団体が多く、長時間予約や予備日の設定がされていることもあり、利用したくても利用できない状況も出ている。大人の団体であれば有料化が必要である。
- 図書館の指定管理が、引き続きの業者となり、活発な活動がなされている。特に小中学校への図書の貸出しは、子どもの読書推進にとっても、とてもよいことである。
- 「夜間講座」は他市町では聞いたことがない。参加者拡大の観点からも素晴らしい工夫であり、行政の都合ではなく、それを改革しようとする姿勢に期待したい。

◎ 町民会館関係

- 知多5市5町の協定により、文化施設の共同利用ができている。他市町からの利用も多くなっている。
- 芸術と科学による本物体験は、非常にいいやり方であるので、今後も続けてほしい。
- JAXAとの連携は目玉になりうる。いろいろな人の組み合わせで事業を進めていることがわかり、継続と発展を期待したい。
- 有料鑑賞事業の中で、実行委員会の事業費に対する入場料の割合が、前年度に比べ大幅に低く、また、公共サービスとはいえ採算性が悪すぎる。工夫を促したい。

◎ スポーツ課関係

- 夏のスポーツは空調のある総合体育館で行いたいのが、総合体育館の予約がなかなか取れない現状である。学校の体育館の空調設置についても、避難所という観点から検討を進められるとよい。
- ジュニアに対する支援がしっかりとされており、とてもよいことである。
- 部活動支援員の派遣事業が行われているが、町からの派遣だけでなく、一般地域の方も広く入れるという方法もあるのではないかな。
- 同じ体操でも、介護予防事業の「体操サロン」は多く参加しているのに、スポーツ教室の「健康体操」は非常に少ない。スポーツ教室として引き付ける工夫がほしい。

◎ 委員長総評

- 小中学校学習指導要領の改訂期になっている。今回の改訂の中で「カリキュラムマネジメント」という言葉が使われており、今までの各教科の縦割り意識から、横断的なマネジメントが求められているように感じる。本年度の点検・評価の特徴として、学校教育・生涯教育ともに、「連携」「協働」「横のつながり」という話が多く見られた。学校だけでなく、地域や、地元企業、他市町を含めていろいろな方とのネットワークの中で、行政を推進している部分は評価できるものである。今後も、「チーム武豊」でさらに発展をお願いしたい。
- 地域の人、企業、団体ともに、資源であると考えて。その資源をいかに有効にネットワーク化し、町民のために機能するように展開できるかが大切である。
- 生涯学習に関しては、行政が抱え込むのではなく、自主的な市民活動へと広げていくことが大切であり、それが生涯学習としての本来の目的達成に近づく道である。例えば、講座を受けた人が、発展として講師となる、企画を行う、自主的な団体として活動を継続するといった活動ができるようになると、学習だけでなく、様々な地域の抱える課題などに対しても市民活動が展開されていくのではないだろうか。

上記のとおり、武豊町教育委員会点検評価委員会としての意見とする。

平成30年7月26日

武豊町教育委員会教育長 殿

武豊町教育委員会点検評価委員